ONKYO®

AV アンプ

TX-SA600

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書と
ともに大切に保管してください。

主な特長

■ ドルビー*デジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビープロロジック II サラウンド再生可能

■ DTS**、DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1、DTS Neo:6サラウンド再生可能

■ MPEG-2 AAC再生可能

■ 再生周波数の広帯域化（10Hz～100kHz）を実現する技術WRAT（Wide Range Amplifier Technology）

■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路

■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路

■ DVD-Audioプレーヤーなどへの拡張性を実現する5.1チャンネル入力端子装備

■ 高音域が強調された劇場用サウンドを家庭で適切なバランスに補正する「シネマフィルター（CinemaFILTER）」

■ 小音量でもサラウンドを楽しめる「レイト・ナイト（LATE NIGHT）」機能

■ D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統

■ S映像入力端子5系統/出力端子2系統

■ デジタル入力端子として光2系統、同軸1系統、デジタル出力端子として光1系統

■ モニターを見ながら、初期設定や各種設定が簡単に行えるオンスクリーンディスプレイ（OSD）機能

■ 他機の操作および短縮操作を可能にするラーニング＆プリプログラムド、マクロ機能搭載のリモコン付属

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

** 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS-ES Extended Surround”および“Neo:6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

• AACパテントマーキング

Pat. 5,848,391	5,291,557	5,451,954	5 400 433	5,222,189	5,357,594	5 752 225
5,394,473	5,583,962	5,274,740	5,633,981	5 297 236	4,914,701	5,235,671
07/640,550	5,579,430	08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874	98/03036
5,227,788	5,285,498	5,481,614	5,592,584	5,781,888	08/039,478	08/211,547
5,703,999	08/557,046	08/894,844	5,299,238	5,299,239	5,299,240	5,197,087
5,490,170	5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654	5,548,574	5,717,821

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品名の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

目次

オーディオ機器の正しい使いかた

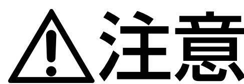
オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

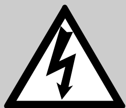


この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



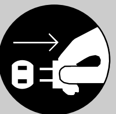
△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。





●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

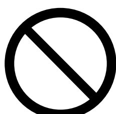
■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

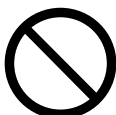
- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



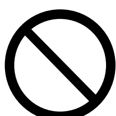
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない



水場での使用禁止

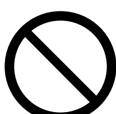
- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

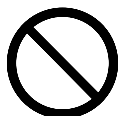
■ 水の入った容器を置かない



- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

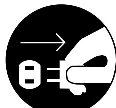
⚠警告

■ 中に物を入れない



● 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

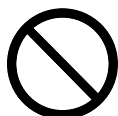
電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

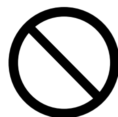


● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



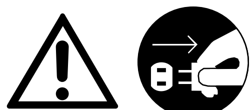
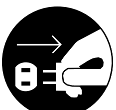
● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない



● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

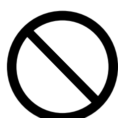
■ 雷が鳴りだしたら、機器に触れない



接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

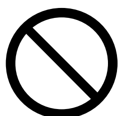
■ 乾電池を充電しない



● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

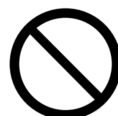
⚠注意

■ 設置上の注意



- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



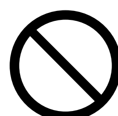
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



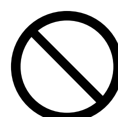
- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

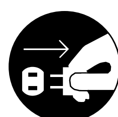


- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

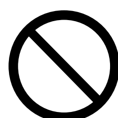
- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 電池について

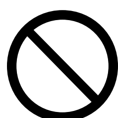


● 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



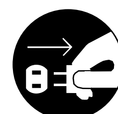
● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて



● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

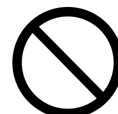


電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

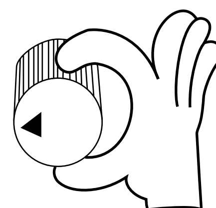


● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。



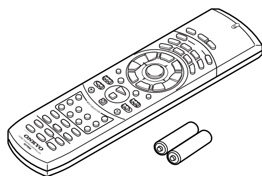
● 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

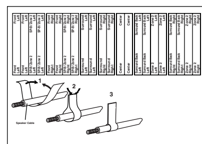


付属品を確認する

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。
（ ）内の数字は個数を表します。



リモコン（RC-480M）…（1）
乾電池（単三型）…（2）



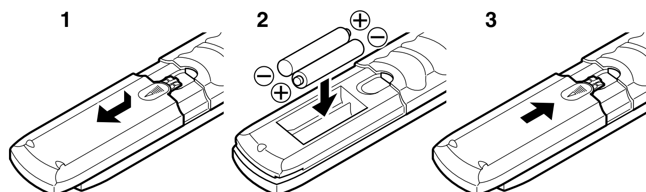
スピーカーケーブル用
ラベル…（1）

取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）

リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらしてあける
2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる
3. カバーを戻す

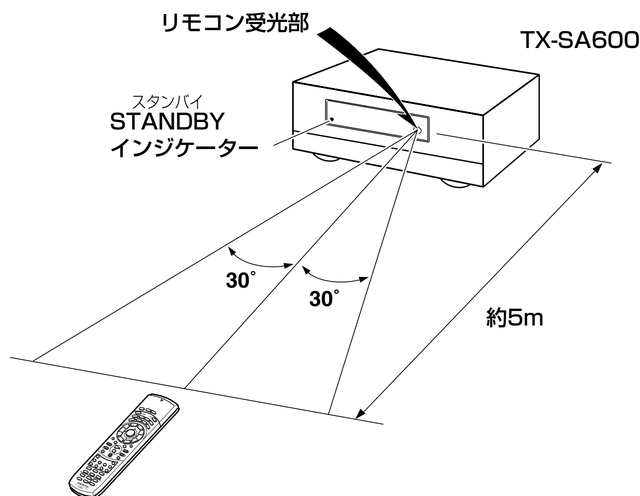


ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
  電池の交換時には、単3型をご使用ください。

リモコンを使うには

リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBYインジケーターが点灯します。



ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

DVD ホームシアター 早わかりガイド

お手持ちのDVDプレーヤー、テレビ、スピーカーを使ってホームシアターを簡単にお楽しみいただくための早わかりガイドです。
他の機器を接続する場合や操作、設定について詳しくは、14ページ以降をご覧ください。

接続に必要なもの

接続コード類は、各機器に付属または市販のものをご使用ください。また、お手持ちの機器によっては異なる場合がありますので、各機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

DVDプレーヤー

光デジタルケーブル（機種によっては同軸デジタルケーブル）

ビデオ用ピンコード　Sビデオケーブル　コンポーネントビデオコード　D端子接続コード

映像端子接続コード*

テレビ

ビデオ用ピンコード　Sビデオケーブル　コンポーネントビデオコード　D端子接続コード

映像端子接続コード*

＊映像端子接続コードについて

お手持ちのDVDプレーヤーやテレビの映像端子の形状にあったコードいずれか１種類を用意します。
このとき、たとえば本機とDVDプレーヤーをSビデオ端子で接続した場合は本機とテレビもSビデオ端子で接続する、というように必ず同じ種類の端子で接続してください。

スピーカーシステム

スピーカーコード

スピーカーケーブル用ラベル（使いかたについては25ページをご覧ください）

サブウーファー

オーディオ用ピンコード

接続のしかた

接続する前に

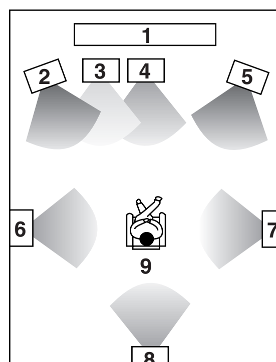
- 電源コードは、すべての接続が終わるまでコンセントに差し込まないでください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。

1. 各スピーカーの位置を決め、本機とスピーカーを接続する

理想的な配置については、右図をご覧ください。

2. 本機とテレビを接続する

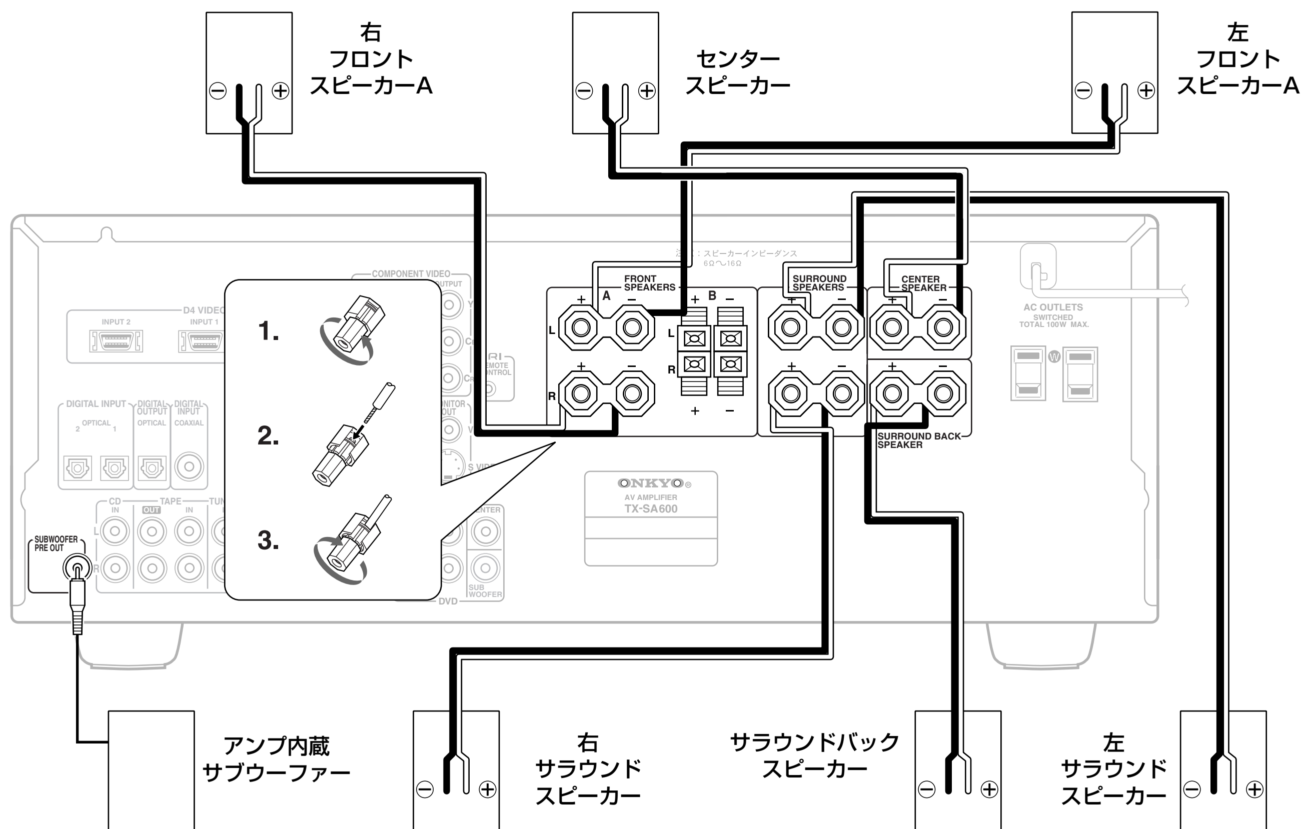
3. 本機とDVDプレーヤーを接続する



1　テレビまたはスクリーン
2　左フロントスピーカー
3　サブウーファー
4　センタースピーカー
5　右フロントスピーカー
6　左サラウンドスピーカー
7　右サラウンドスピーカー
8　サラウンドバックスピーカー
9　リスニングポジション

スピーカーシステムの接続

左右フロント、センター、左右サラウンド、サラウンドバック、サブウーファーの7本のスピーカーを接続すると6.1ch再生ができます。サラウンドバックスピーカーを接続しないときは、5.1ch再生になります。
詳しくは26ページをご覧ください。

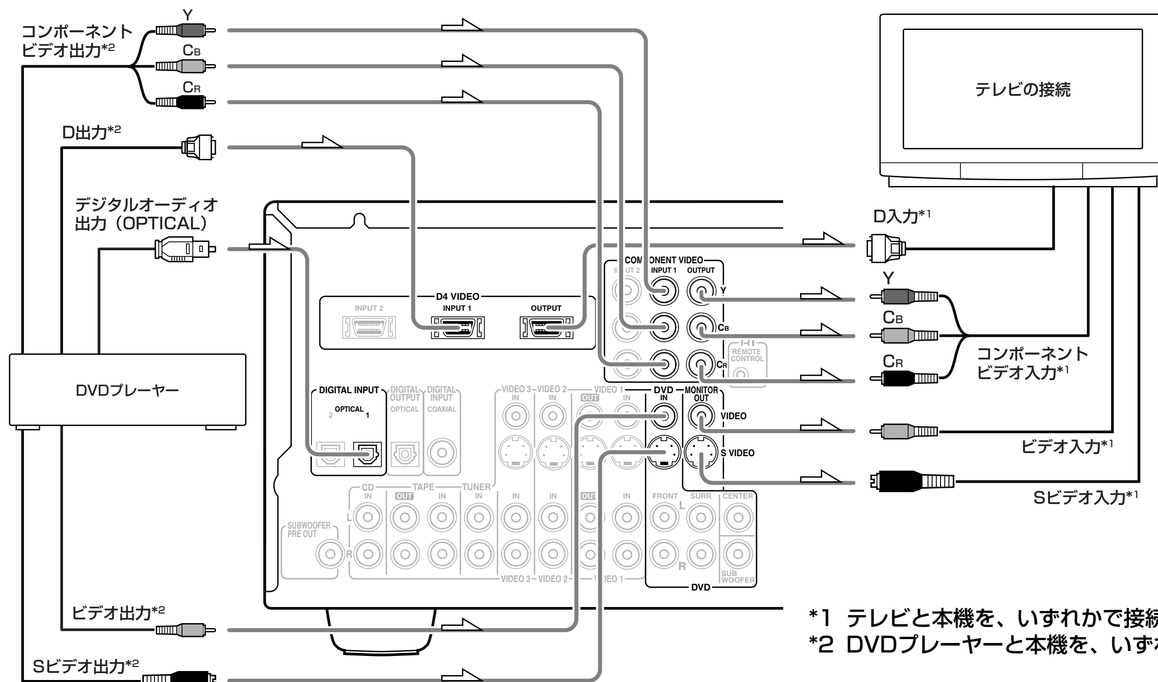


DVDプレーヤー、テレビとの接続

詳しくは20、21、23ページをご覧ください。

お知らせ

DVDプレーヤーのデジタル出力を接続するときは、本機のOPTICAL 1端子に接続してください。OPTICAL 2端子や、同軸ケーブルでCOAXIAL端子に接続する場合は、入力ソースに割り当てられているデジタル入力を変更する必要があります。（「Digital Input」（デジタル入力）（☞40ページ））

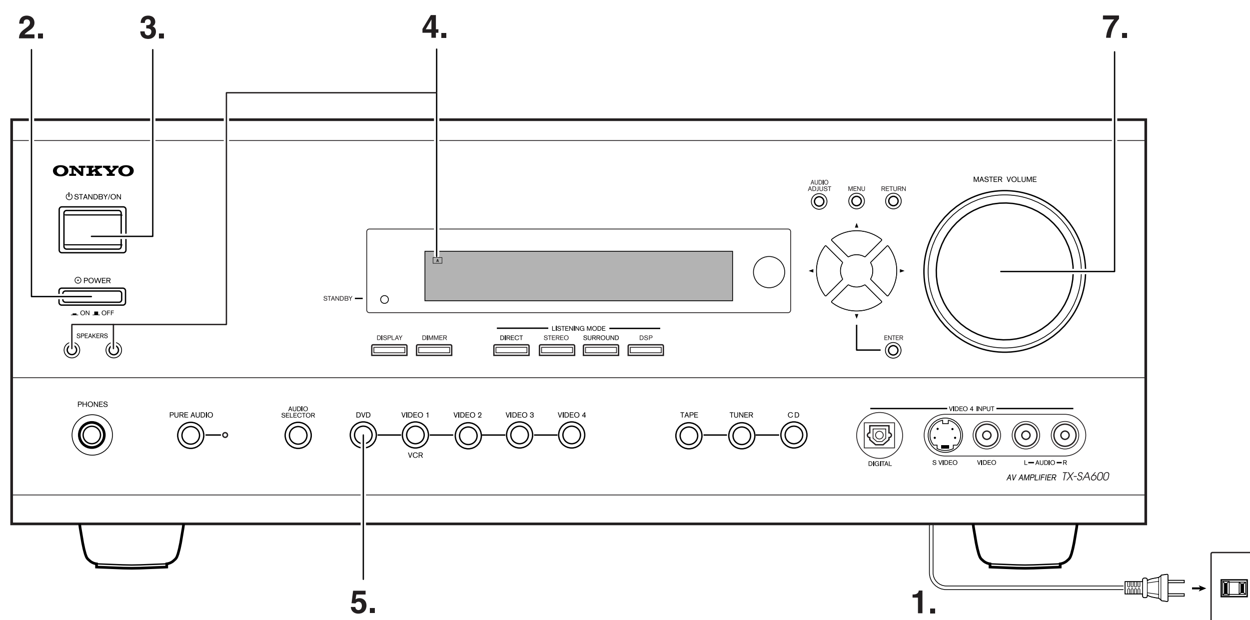


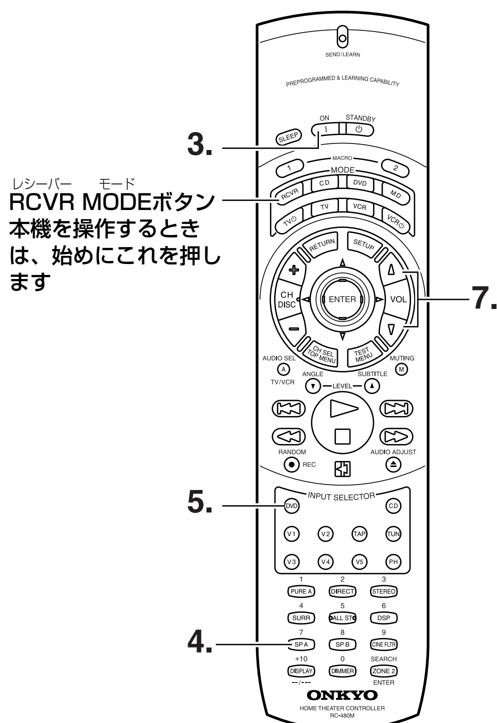
*1 テレビと本機を、いずれかで接続します。
*2 DVDプレーヤーと本機を、いずれかで接続します。

DVD再生の手順

操作する前に

- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、他の機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューター等の精密機器とは別系統のコンセントにつないでください。
- 本機は主電源スイッチ（POWER）を入（▬ ON）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差しこむとSTANDBYインジケーターが点灯し、下記の手順2と同じ状態になります。





［　］内の数字は詳しく説明してあるページです。

1. 電源コードを壁のコンセントに接続する［28］
2. POWERスイッチを押して主電源を入れる［28］
3. 本機のSTANDBY/ONボタン（またはリモコンのONボタン）を押して、電源を入れる［28］
4. 表示部にスピーカーAのインジケーター（A）が点灯していることを確認する［33］
   点灯していない場合は、本体のSPEAKERS Aもしくはリモコンの SP Aボタンを押して点灯させてください。
5. 入力切り換えボタンのDVDを押す
6. DVDプレーヤーの再生を始める
7. 本機のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのVOL ▲/▼ボタンで音量を調節する。
   MASTER VOLUMEつまみを右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。VOL ▲ ボタンを押すと音量が上がり、▼ ボタンを押すと下がります。

お知らせ

より効果的にサラウンド音声をお楽しみいただくには、スピーカー設定（「Speaker Config」、「Speaker Distance」、「Level Calibration」）をする必要があります。理想的な配置でスピーカーを設置できない場合や、スピーカーの性能にばらつきがある場合は、スピーカーの設定が重要になります。
29〜32ページをご覧になり、各スピーカーの音量バランスを調整してください。

リモコンでできる主な操作

［　］内の数字は詳しく説明してあるページです。

本機の電源を入/切（スタンバイ）する［28］

スリープタイマーを使う［16］
押すたびに次の順で切り換わります。
90分→80→70→60→50→40→30→20→10→解除

オーディオ入力信号のフォーマットを切り換える［33］
押すたびに次の順で切り換わります。
Auto→Multich→Analog→Auto...

マルチチャンネルを楽しむ［35］
1. 入力ソースをDVDにする
2. AUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタンを押して、「Multich（マルチチャンネル）」を選ぶ

ダイレクトにリスニングモードを選ぶ［38］

スピーカーA、スピーカーBをオン/オフする［34］

音量のバランス調整をする［32］
1. TEST（テスト）ボタンを押す
フロント左からテスト音が出ます。
2. CH SEL（チャンネルセレクター）でスピーカーを選ぶ
CH SELボタンを押すごとに、スピーカーが切り換わります。
左フロント→センター→右フロント→右サラウンド→サラウンドバック→左サラウンド→サブウーファー→左フロント...
3. LEVEL（レベル） ▲/▼で音量を調整する
4. TESTボタンを押して終了する

音量を調整する［33］

一時的に音声を小さくする［34］

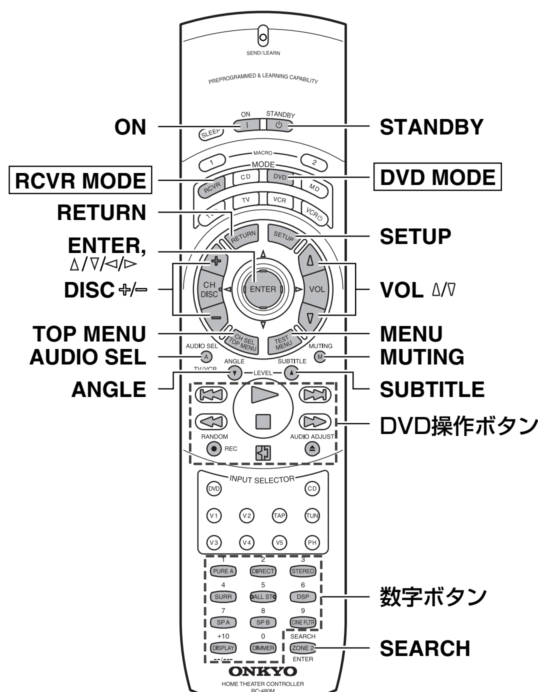
入力ソースを切り換える［33］

オンキヨーオリジナルのリスニングモードを順に選ぶ［38］

シネマフィルターの効果を効かせる［39］

表示部の明るさを変える
押すたびに次の順で切り換わります。
やや暗い→暗い→通常

オンキヨー製DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作する

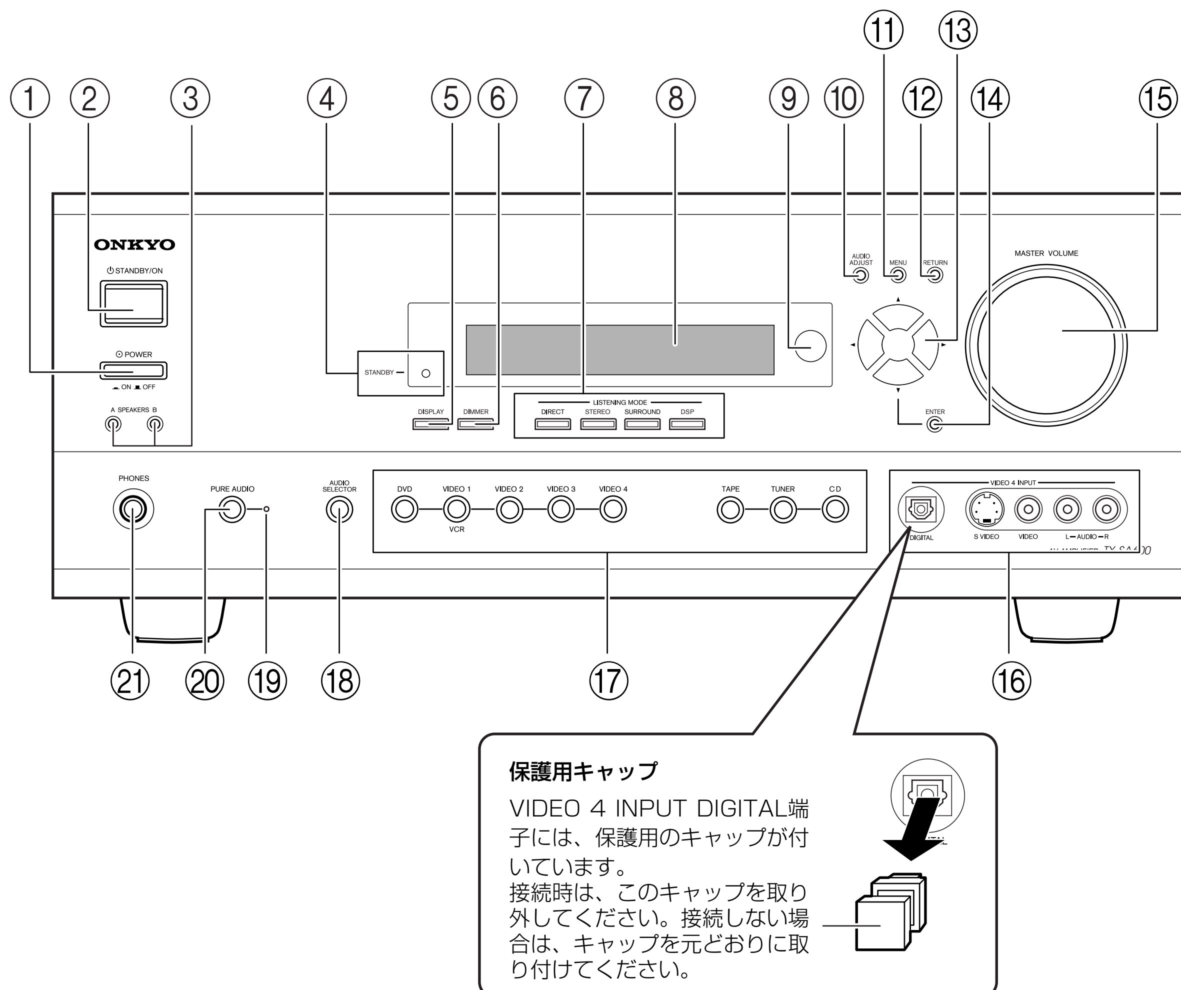


1. RI（アールアイ）ケーブルで本機とDVDプレーヤーを接続する
RIケーブルはオンキヨー製DVDプレーヤーに付属しています。詳しい接続のしかたについては、24ページをご覧ください。
2. DVD（ディーブイディー） MODE（モード）ボタンを押す
3. DVDプレーヤーの電源を入れる
4. DVDプレーヤーを操作する
グレーのボタンがDVDプレーヤー操作用として使用できます。各ボタンの機能については、50ページをご覧ください。
本機操作用に戻したい場合はRCVR（レシーバー） MODE（モード）ボタンを押します。

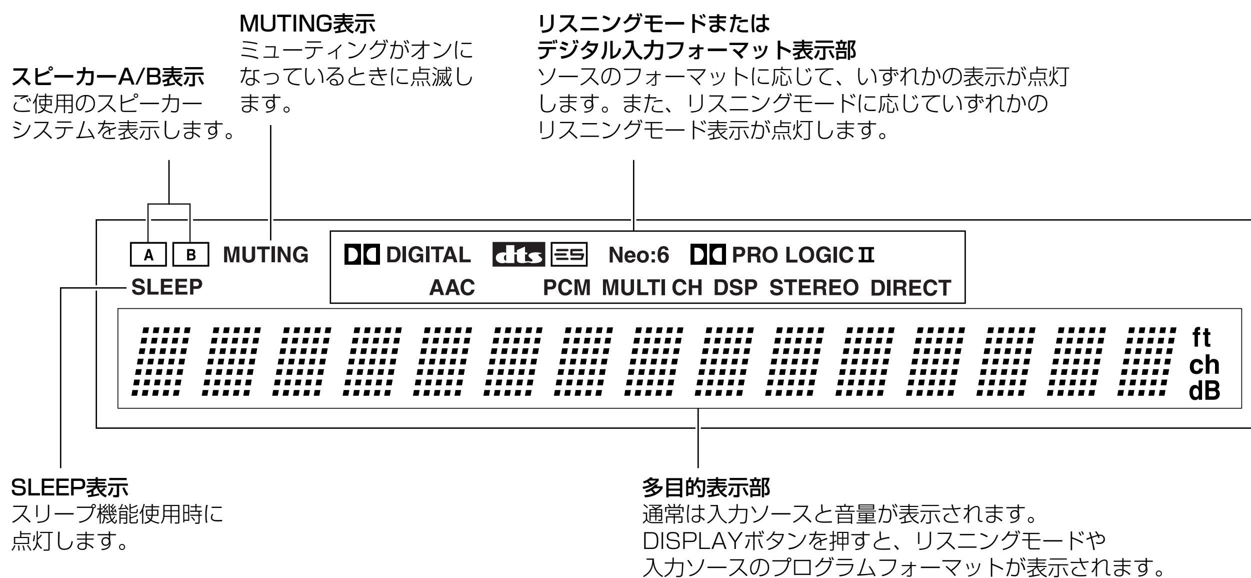
各部の名称と働き

ここでは、フロントパネルの操作ボタンおよび表示部について説明します。

フロントパネル



フロントパネル表示部



フロントパネル

詳しい説明は、［　］のページをご覧ください。

① POWERスイッチ（主電源）［28］

本機の主電源を入れます。主電源が入ると、STANDBYインジケーターが点灯します。

② STANDBY/ONボタン［28］

主電源が入っているときに押すと、電源がオンになり、表示部が点灯します。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、表示部が消灯し、操作はできません。

③ SPEAKERS A/Bボタン［34］

スピーカーA/Bをオン/オフします。

④ STANDBYインジケーター［9、28］

スタンバイ状態の時やリモコンからの信号を受信するたびに点灯します。

⑤ DISPLAYボタン［34］

表示部の表示内容を切り換えます。

⑥ DIMMERボタン

表示部の明るさを設定します。押すたびに次の順で切り換わります。やや暗い→暗い→通常

- 表示部の明るさはリモコンのDIMMERボタンでも調整できます。

⑦ リスニングモードボタン［38］

リスニングモードを選びます。
DIRECT、STEREO、SURROUNDは一度押すだけでリスニングモードを選べます。DSPはオンキヨーオリジナルのリスニングモードを順に呼び出します。
また、マルチチャンネル入力時は、DIRECTボタンを押すと、トーンコントロール機能がオフになり、SURROUNDボタンを押すと、トーンコントロール機能がオンになります。［35］

⑧ 表示部

⑨ リモコン受光部［9］

⑩ AUDIO ADJUSTボタン［44］

音質調整や、リスニングモードのパラメーター設定を行うときに使用します。

⑪ MENUボタン［29］

ボタンを押すと、メニュー操作状態になります。表示部とテレビ画面にメニュー項目が表示されます。メニュー操作状態で押すと、メニュー操作を終了します。

⑫ RETURNボタン［29］

メニュー操作時に押すと、ひとつ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

⑬ カーソル（▲/▼/◀/▶）ボタン［29］

▲/▼ボタンは、メニュー操作時に、カーソル（反転された項目）を上下に移動します。
◀/▶ボタンは、メニュー操作時に、▲/▼ボタンで選択した値や項目を選択します。

⑭ ENTERボタン［29］

メニュー操作時、選択している項目の画面を表示します。

⑮ MASTER VOLUMEつまみ［33］

音量を調整します。
音量は、Min、1、2･･･98、99、Maxの範囲で調整できます。

⑯ VIDEO 4 INPUT端子［23］

ビデオカメラやゲーム機器などを接続します。

⑰ 入力切り換えボタン（DVD、VIDEO 1～4、TAPE、TUNER、CD）［33］

入力ソースを選びます。

⑱ AUDIO SELECTORボタン［33］

オーディオ入力信号の種類を選びます。

⑲ PURE AUDIOインジケーター

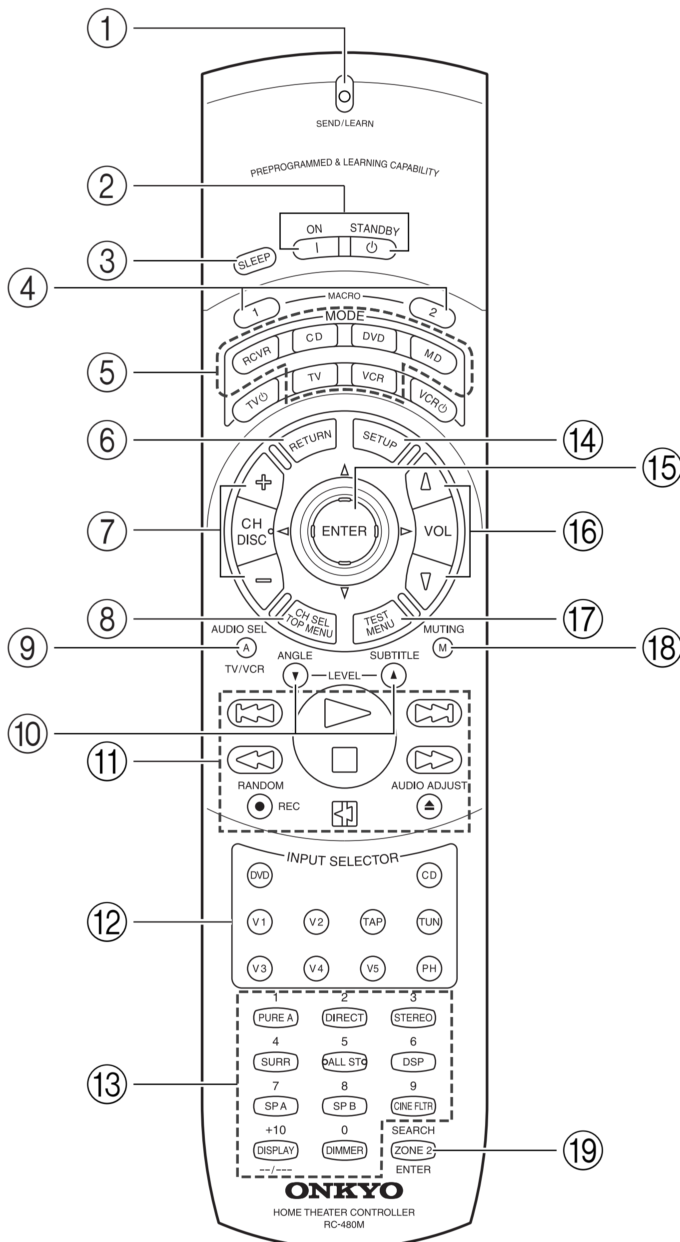
Pure Audio再生時に点灯します。

⑳ PURE AUDIOボタン［38］

リスニングモードにPure Audioを選びます。

㉑ PHONES端子

ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。ヘッドホンプラグを挿入すると、左右フロントスピーカーの音声がヘッドホンに出力され、スピーカーからの音は出なくなります。このとき選べるリスニングモードは「Direct」、「Stereo」、「Pure Audio」のみです。
「Direct」「Pure Audio」以外のリスニングモードを選んでいるときにヘッドホンプラグを挿入すると、リスニングモードは自動的に「Stereo」になり、ヘッドホンプラグを抜くと、元のリスニングモードに戻ります。



リモコン

① **SEND/LEARNインジケーター**

信号送信時に赤く点灯します。また、リモコンの電池の残りが少なくなると、ボタンを押したときに点滅します。

② **ONボタン［28］**

本機の電源を入れます。

STANDBYボタン

本機をスタンバイ状態にします。

③ **SLEEPボタン**

スリープ時間を設定します。
一定時間経過後に自動的に本機の電源が切れるように設定できます。SLEEPボタンを1回押すと90分後に本機の電源が切れます。その後、SLEEPボタンを1回押すごとに本体の電源が切れるまでの時間が10分ずつ短くなります。スリープ機能が有効になっているときにSLEEPボタンを押すと、電源が切れるまでの時間が表示されます。表示時間が10分より短くなった時にSLEEPボタンを押すと、スリープ機能が解除されます。

④ **MACRO1、2ボタン［57］**

マクロ機能の設定や実行時に押します。

⑤ **MODE（モード切り換え）ボタン［33、48］**

操作する機器を選びます。押すと8秒間緑色に点灯します。また、ボタンを押したときに現在選ばれているMODEボタンが緑色に点灯します。

本機を操作するときは、はじめにRCVR MODEボタンを押します。

⑥ **RETURNボタン［29］**

設定を確定し、1つ前の画面に戻ります。

⑦ **CH +/−ボタン［48］**

チューナー操作時は、チューナーのプリセットチャンネルを選択します。

DISC +ボタン［49］

CDプレヤー操作時、CDチェンジャーのディスクを選択します。

⑧ **CH SELボタン［32］**

レベル調整したいスピーカーを選択します。

TOP MENUボタン［50］

DVD操作時、メニューを表示します。

各部の名称と働き

⑨ **AUDIO SELボタン［33］**

オーディオ入力信号の種類を選びます。押すたびにAuto→Multich（入力ソースがDVDのときのみ）→Analogと表示が切り換わります。

TV/VCRボタン［51］

TVやVCRのリモコン信号を記憶させるときに使います。

⑩ **LEVEL ▲/▼ボタン［32］**

CH SELボタンで選択したスピーカーのレベルを調整します。

ANGLEボタン［50］

マルチアングル再生対応のDVD操作時、カメラアングルを選びます。

SUBTITLEボタン［50］

DVD操作時、DVDビデオの字幕言語を選びます。

⑪ **CD/TAPE/DVD/MD操作ボタン［48］**

本機にRI接続したオンキヨー製品を操作します。

⑫ **INPUT SELECTOR（入力切り換え）ボタン［33］**

入力ソースを選びます。

V5、PHボタン

本機では使用しません。

⑬ **数字ボタン（1～9、＋10、0）［49、50］**

曲番などの数字を指定します。

PURE A、DIRECT、STEREO、SURR、ALL ST、DSPボタン［38］

リスニングモードを選びます。

SP A、SP Bボタン［34］

スピーカーA/Bをオン/オフします。

CINE FLTRボタン［39］

リスニングモード設定によって、Cinema FILTERのオン/オフを切り換えます。
映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。CinemaFILTERは、高音域をホームシアター音声用に補正します。

DISPLAYボタン［34］

表示部の表示を切り換えます。

DIMMERボタン

表示部の明るさを調整します。3段階の調整ができます。

⑭ **SETUPボタン［29］**

表示部とテレビ画面にメニューを表示します。またメニューを終了します。

⑮ **▲/▼/◄/►、ENTERボタン［29］**

メニュー操作時、上下に押すと、カーソル位置を上下に移動します。左右に押すと、設定項目が変更されます。ENTERボタンを押すと、次の項目に進みます。

⑯ **VOL ▲/▼ ボタン［33］**

音量を調整します。

⑰ **TESTボタン［32］**

スピーカーの出力レベルを設定するときに使用します。LEVEL ▲/▼ボタン、CH SELボタンと合わせて使用すれば、セットアップメニューを使用せずにスピーカーレベルを調節できます。

MENUボタン［50］

DVDを選んでいるときは、DVDのメニューを表示します。

⑱ **MUTINGボタン［34］**

音を一時的に小さくします。

⑲ **SEARCHボタン［50］**

DVD操作時、再生したい部分を探します。

ZONE 2ボタン

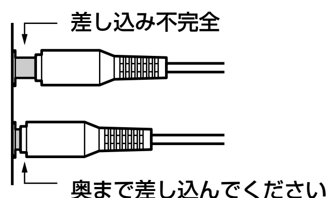
本機では使用しません。

ENTERボタン［49］

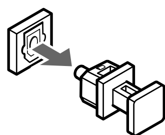
MD操作時、選曲を確定します。

接続する

- 接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは、すべての接続が終わるまで接続しないでください。
- 入力端子は、赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（Vの表示）をビデオチャンネルに接続してください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。

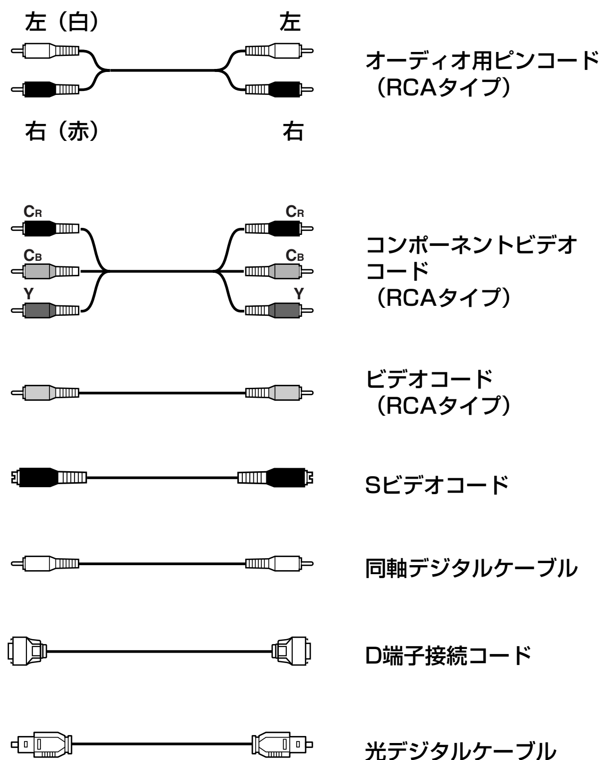


- ビデオコード、オーディオ用ピンコード類は、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。



光デジタル入力端子/出力端子
光デジタル端子には保護用キャップが取り付けられています。接続時はこのキャップを取り外して、なくさないように保管してください。使用しない場合は、キャップを元どおりに取り付けてください。

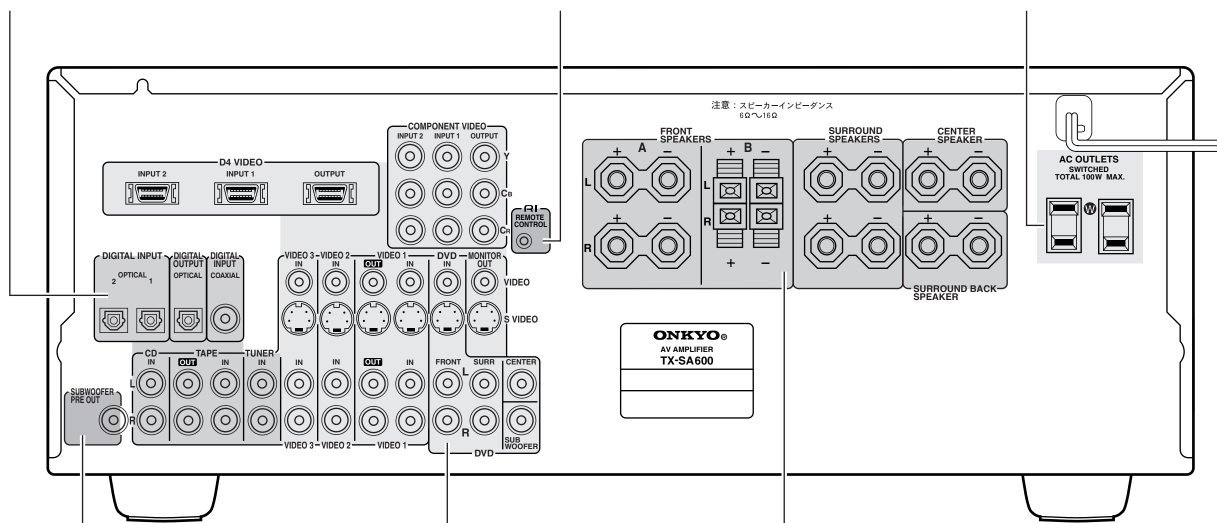
接続図では、接続コードを次のように示します。



オーディオ機器を接続する［19］

RI REMOTE CONTROL端子［24］

AC OUTLETS
（電源コンセント）［24］



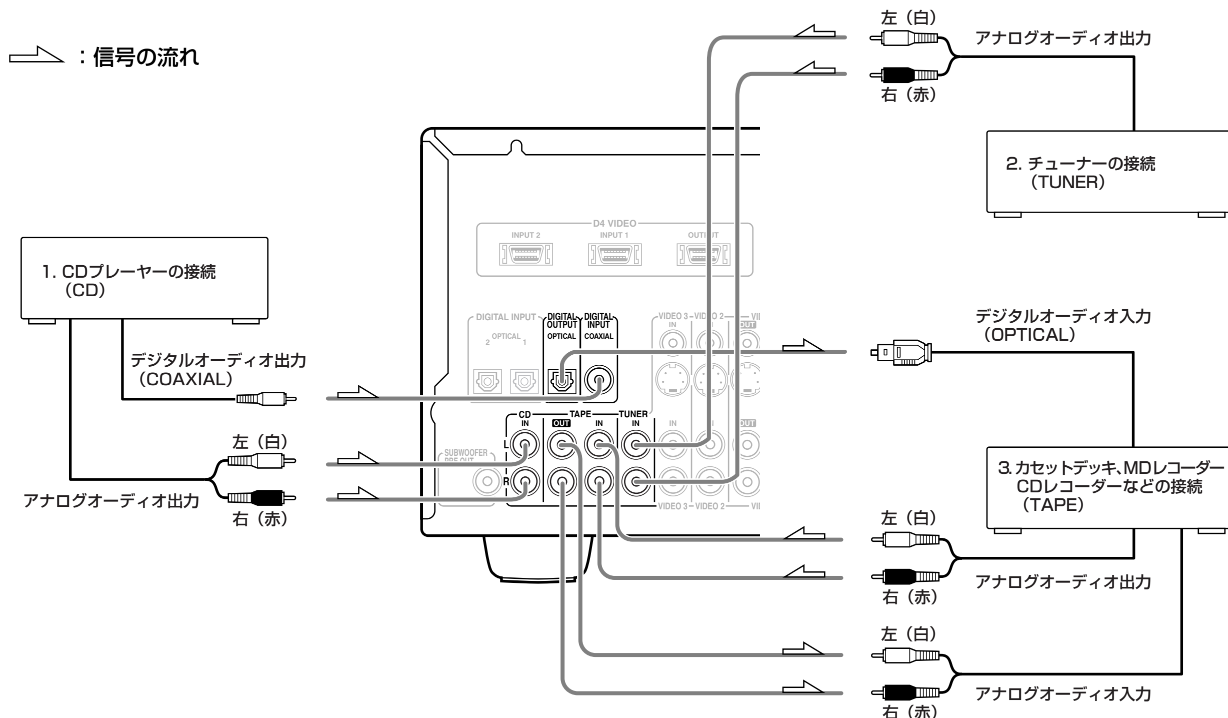
SUBWOOFER PRE OUT
端子［25］

ビデオ機器を接続する［20］

スピーカーを接続する［25］

各機器の接続例

ここでは本機に接続できる機器の接続方法について説明します。ここでの説明は一例です。各コネクターや端子の特性や各機器の特長を十分理解し、最適な方法で接続してください。



オーディオ機器を接続する

ここでは、本機にオーディオ機器を接続する例を説明します。本ページの図を参考にして接続してください。

AUDIO IN/OUT端子

アナログ音声の入出力端子です。リアパネルには音声入力は7系統あり、音声出力は2系統あります。音声入出力端子の接続には、RCAタイプのオーディオ用ピンコードが必要です。

ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子（たとえばVIDEO 3）に接続してください。

DIGITAL INPUT/OUTPUT端子

リアパネルには、デジタル入力端子として、同軸端子（COAXIAL）が1つ、光端子（OPTICAL）が2つあります。これらの入力端子に、CDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。
デジタル出力端子（OPTICAL）には、MDレコーダー、CDレコーダー、DATなどを接続します。

1. CDプレーヤーの接続（CD）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの出力端子と本機のCD IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のあるCDプレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子またはDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子に接続します。
CDのデジタル入力は、初期設定ではCOAXIAL（COAX）に設定されています。COAXIAL以外の端子にCDプレーヤーを接続したときは、「Input Setup」の「Digital Input」（☞40ページ）で設定を変更してください。

2. チューナーの接続（TUNER）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、チューナーの出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

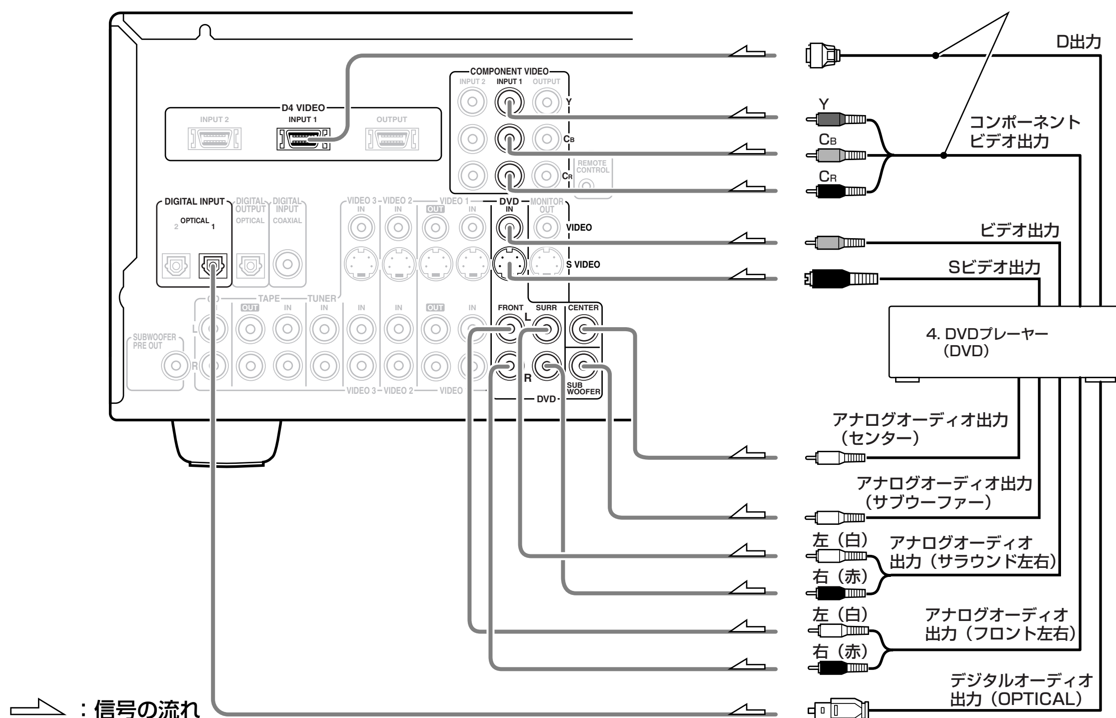
3. カセットデッキ、MDレコーダー、DAT、CDレコーダーの接続（TAPE）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、各機器の出力端子（PLAY）を本機のTAPE IN L/R端子に、入力端子（REC）を本機のTAPE OUT L/R端子に接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のある機器の場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子またはDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子にも接続します。
TAPEのデジタル入力は、初期設定では割り当てられていません。デジタル入力端子に機器を接続したときは、「Input Setup」の「Digital Input」（☞40ページ）で設定を変更してください。
デジタル入力端子のある機器は、本機のDIGITAL OUTPUT（OPTICAL）端子に接続すると、本機のデジタル入力端子から入力された信号をデジタル録音できるようになります。

ご注意

本機のDIGITAL OUTPUT端子から出力される信号は、DIGITAL INPUT端子に入力されたデジタル信号のみです。

マルチチャンネル（5.1チャンネル）出力端子のあるDVDプレーヤーとの接続例



ビデオ機器を接続する

ここでは、本機にビデオ機器を接続する例を示します。本ページの図を参考にして接続してください。
AUDIO IN/OUT端子、DIGITAL INPUT/OUTPUT端子については、19ページをご覧ください。

COMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子
DVDプレーヤーなどの映像機器にコンポーネント映像端子がある場合、コンポーネント信号（Y、CB、CR）を直接入力できます。コンポーネント映像出力端子は、テレビまたはプロジェクターのコンポーネント入力端子に接続します。

D4 VIDEO INPUT/OUTPUT端子
BSデジタル受信機などにD端子（D1～D4）がある場合、信号を直接入力できます。D出力端子は、テレビまたはプロジェクターのD4入力端子に接続します。

ご注意

- D4 VIDEO INPUT/OUTPUT端子とCOMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子は内部で並列に接続されていますので、同時に接続しないでください。
  たとえば、INPUT 1のD4端子に映像機器を接続した場合、INPUT 1のCOMPONENT端子には、何も接続しないでください。
- COMPONENT VIDEO INPUT端子からの信号は、COMPONENT VIDEO OUTPUTとD4 VIDEO OUTPUT端子に出力されます。お手持ちの映像機器と本機をコンポーネント接続しているときは、本機とテレビもコンポーネントまたはD4端子で接続してください。
- D4 VIDEO INPUT端子からの信号は、D4 VIDEO OUTPUT端子とCOMPONENT VIDEO OUTPUT端子に出力されます。お手持ちの映像機器と本機をD4端子で接続したときは、本機とテレビもD4またはコンポーネント端子で接続してください。

VIDEO IN/OUT端子
リアパネルには、4系統の入力と1系統の出力があり、それぞれにコンポジット映像端子とS映像端子があります。
映像出力には、ビデオデッキ等の録画機器を接続します。
また、フロントパネルには、VIDEO 4 INPUT端子があります。

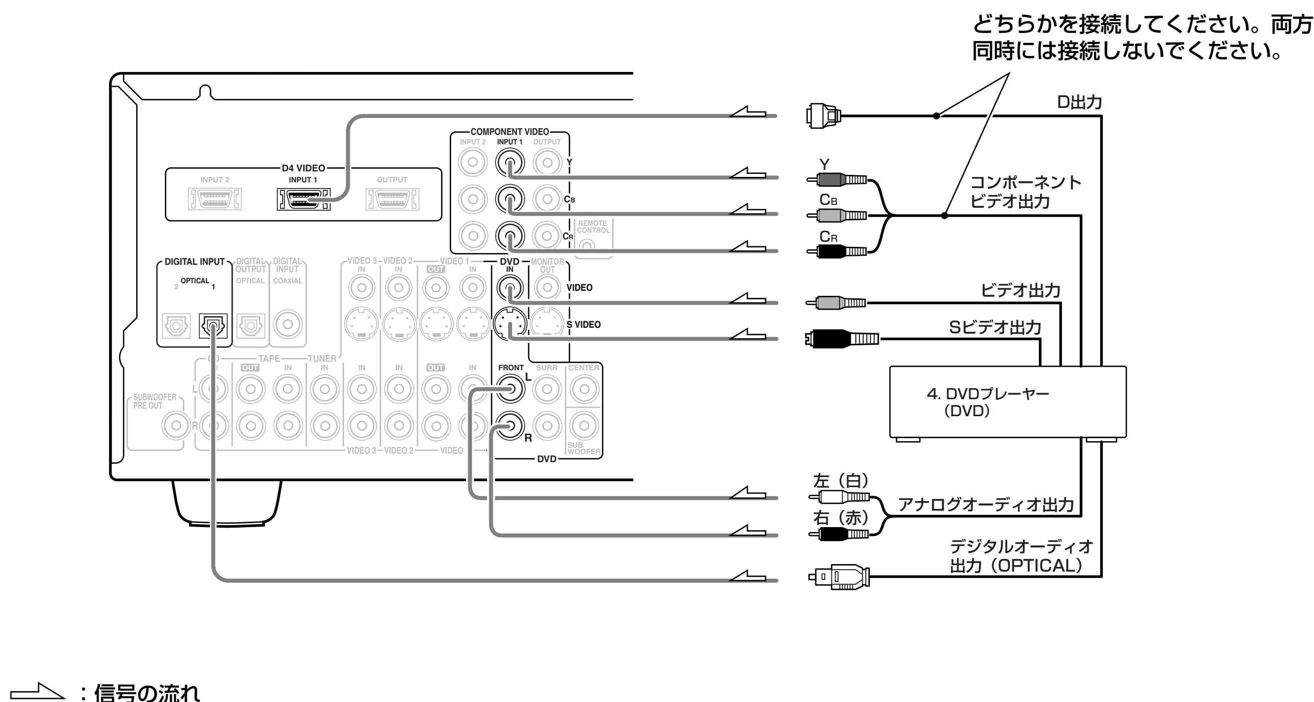
映像信号の流れは、次のとおりです。

- VIDEO IN端子からの信号は、VIDEO OUT端子に出力されます。
- S VIDEO IN端子からの信号は、S VIDEO OUT端子に出力されます。

ご注意

- テレビまたはプロジェクターをMONITOR OUTのVIDEOおよびS VIDEO端子だけに接続している場合は、コンポーネント映像端子からソース機器の信号を入力したときでも、映像は表示されません。
- ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子（たとえばVIDEO 3）に接続してください。

2チャンネル（L/R）音声出力端子でのDVDプレーヤーとの接続例



：信号の流れ

4. DVDプレーヤーの接続（DVD）

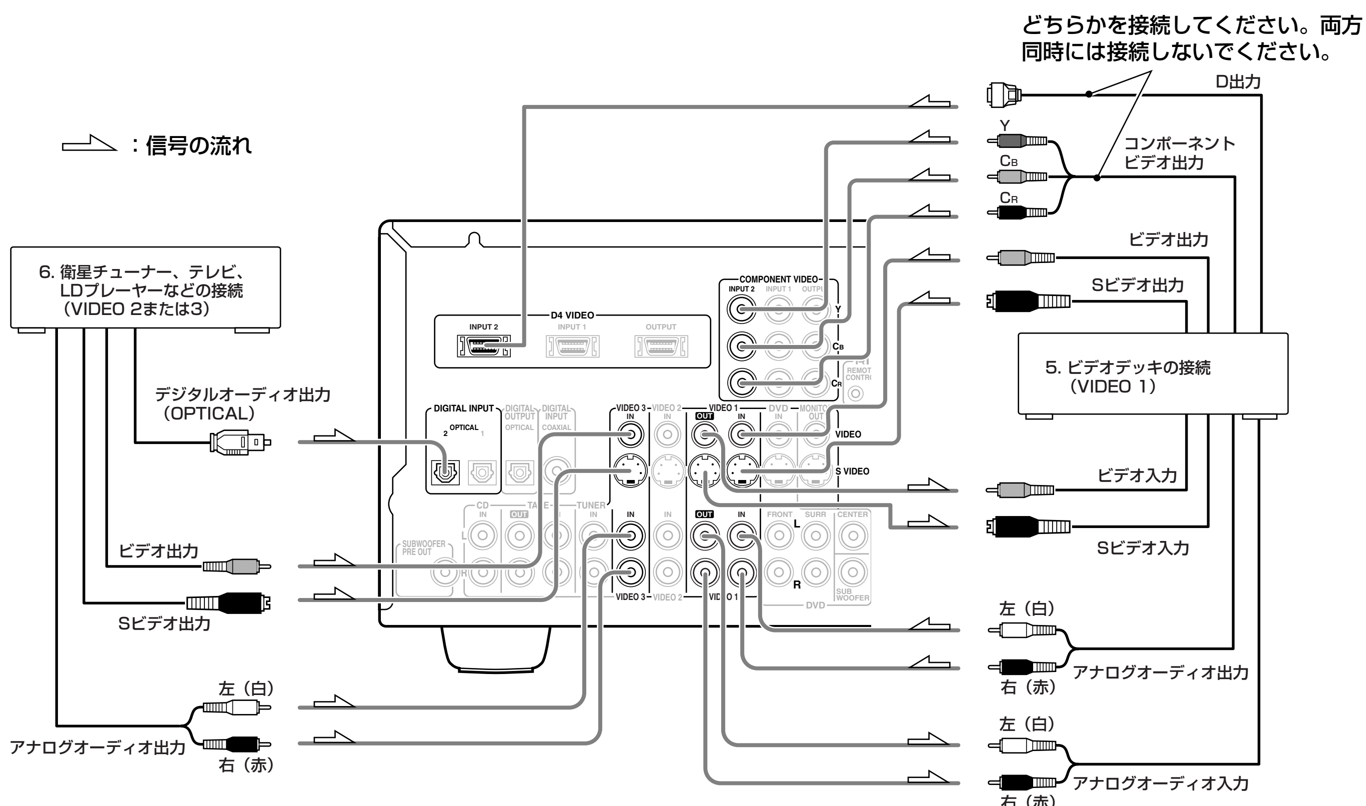
RCAタイプのビデオコードを使って、DVDプレーヤーの映像出力端子（コンポジット）と本機のDVD、VIDEO IN端子を接続します。
DVDプレーヤーにS映像出力端子がある場合は、S映像コードを使って本機のS VIDEO DVD IN端子に接続します。コンポーネント映像出力端子がある場合は、COMPONENT VIDEO INPUT 1または2端子に接続します。D端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT 1または2端子に接続します。
DVDのコンポーネント映像入力/D4映像入力は、初期設定ではINPUT 1に設定されています。INPUT 2に接続したときは、「Input Setup」の「Component Video」（☞41ページ）で設定を変更してください。

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、DVDプレーヤーの出力端子と本機のDVD FRONT L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

マルチチャンネル（5.1チャンネル）出力端子のあるDVDプレーヤーの場合は、本機のDVD FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER入力端子とDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のあるDVDプレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子またはDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子にも接続します。
DVDのデジタル入力は、初期設定ではOPTICAL 1（OPT 1）に設定されています。OPTICAL 1以外の端子にDVDプレーヤーを接続したときは、「Input Setup」の「Digital Input」（☞40ページ）で設定を変更してください。

ご注意

DVDプレーヤーのアナログ音声出力端子に、5.1チャンネルと2チャンネルの両方がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときは、DVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。



5. ビデオデッキの接続（VIDEO1）

RCAタイプのビデオコードを使って、ビデオデッキの映像出力端子（コンポジット）と本機のVIDEO VIDEO 1 IN端子を接続し、ビデオデッキの映像入力端子と本機のVIDEO VIDEO 1 OUT端子を接続します。
ビデオデッキにS映像端子がある場合は、S映像コードを使って、ビデオデッキのS映像出力端子と本機のS VIDEO VIDEO 1 IN端子を接続し、S映像入力端子と本機のS VIDEO VIDEO 1 OUT端子を接続します。コンポーネント映像出力端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。D端子がある場合は、本機のD4VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力/D4映像入力は、初期設定ではINPUT 2に設定されています。INPUT 1に接続したときは、「Input Setup」の「Compoment Video」（☞41ページ）で設定を変更してください。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のAUDIO VIDEO 1 IN L/R端子を接続し、ビデオデッキの音声入力端子と本機のAUDIO VIDEO 1 OUT L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
VIDEO1のデジタル入力は、初期設定では割り当てられていません。デジタル入力端子に機器を接続したときは、「Input Setup」の「Digital Input」（☞40ページ）で設定を変更してください。

6. 衛星放送チューナー、テレビ、LDプレーヤーなどの接続（VIDEO 2またはVIDEO 3）

RCAタイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子（コンポジット）と本機の映像入力端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO VIDEO 2（または3） IN端子に接続します。
機器にコンポーネント映像端子がある場合は、COMPONENT VIDEO INPUT 1または2端子に接続します。機器にD4映像出力端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT 1または2端子に接続します。
コンポーネント映像入力/D4映像入力は、初期設定ではINPUT 2に設定されています。INPUT 1に接続したときは、「Input Setup」の「Component Video」（☞41ページ）で設定を変更してください。

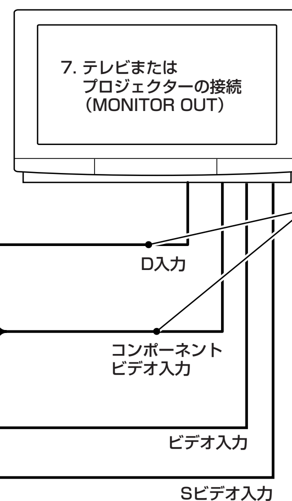
次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のVIDEO 2（またはVIDEO 3）IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

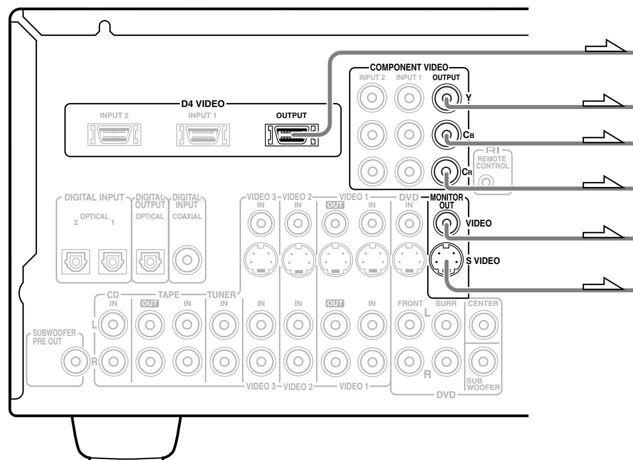
機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子またはDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子にも接続します。
VIDEO 3のデジタル入力は、初期設定ではOPTICAL 2（OPT2）に設定されています。OPTICAL 2以外の端子にデジタル機器を接続したときは、「Input Setup」の「Digital Input」（☞40ページ）で設定を変更してください。

VIDEO 2のデジタル入力は、初期設定では割り当てられていません（----）。デジタル入力端子に機器を接続したときは、「Input Setup」の「Digital Input」（☞40ページ）で設定を変更してください。

本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。市販のデモジュレーターが必要です。

：信号の流れ





ご注意

本機のOSDメニューは、MONITOR OUT VIDEOまたはS VIDEO端子のどちらかにのみ出力されます。初期設定ではVIDEO端子に出力されますので、テレビまたはプロジェクターをS VIDEO端子で接続している場合は、設定を変更してください。（☞29ページ）

7. テレビまたはプロジェクターの接続（MONITOR OUT）

RCAタイプのビデオコードを使って、テレビの映像入力端子（コンポジット）と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を接続します。

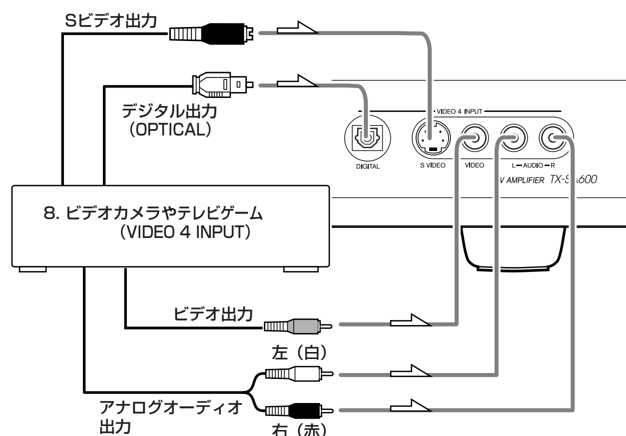
テレビにS映像入力端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO MONITOR OUT端子に接続します。機器にコンポーネント映像入力端子がある場合は、COMPONENT VIDEO OUTPUT端子に接続します。D4映像入力端子がある場合は、本機のD4 VIDEO OUTPUT端子に接続します。

ご注意

- COMPONENT VIDEO OUTPUT端子とD4 VIDEO OUTPUT端子は内部で並列に接続されていますので、同時に接続しないでください。
- 本機のOSDメニュー（☞29ページ）は、MONITOR OUT（VIDEOまたはS VIDEO)にのみ出力されます。コンポーネント映像出力やＤ4映像出力端子からは、出力されません。
- お手持ちの映像機器をコンポーネント端子またはD4端子に接続しているときは、テレビまたはプロジェクターも、コンポーネント端子またはD4端子に接続してください。

8. ビデオカメラやテレビゲームの接続（VIDEO 4）

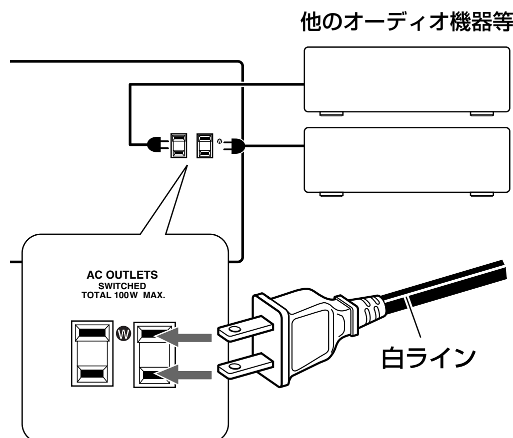
RCAタイプのビデオコードを使って機器の映像出力端子（コンポジット）と本機の映像入力端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は､S映像コードで本機のVIDEO 4 INPUT S VIDEO端子に接続します。
VIDEO 4のデジタル入力は、フロントパネルの光入力固定です。



AC OUTLETS（電源コンセント）

（エーシーアウトレット）

本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。他機の電源スイッチをオンのままにしておけば、本機のPOWERスイッチと連動させて他機の電源も入れたり切ったりすることができます。



ご注意

本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は絶対に接続しないでください。

接続する前に
本機の電源コンセントはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。他機の電源コードの白いラインなどの目印側を、本機の電源コンセントの広い方（Ⓦマーク側）に合わせてください。他機の電源コードに極性表示がない場合はどちらを接続してもかまいません。

RI REMOTE CONTROL端子

（リモート コントロール）

本機のRI端子は、同じRI端子を持つオンキヨー製品と接続するためのものです。RI接続した機器は、本機に付属のリモコンで操作することができます。
さらに、次のようなシステム操作ができます。

電源オン/レディ機能
本機がスタンバイ状態のとき、RI接続した機器の電源を入れると、本機の電源が自動的に入り、入力ソースも接続機器に切り換わります。ただし、RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLETS）に接続されている場合や、本機の電源が入っている場合は、この機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能
RI接続した機器を再生すると、本機の入力ソースが自動的に再生中の機器に切り換わります。

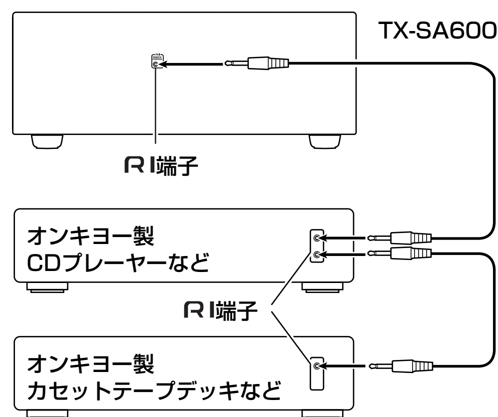
電源オフ機能
本機をスタンバイ状態にすると、RI接続した機器すべてがスタンバイ状態になります。

プリセット操作機能
リモコンにより、RI接続したチューナー機器のプリセット局を選ぶことができます。

また本機の電源がオンのときに、本機に付属のリモコンのONボタンを押すと、RI接続した機器（DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、チューナー）の電源もオンになります。

ご注意

- MDレコーダーは本機のTAPE端子に接続してください。またその場合は、本機の入力をTAPEからMDに切り換えてください。（☞34ページ）
- 機器による接続順序は特にありません。
- RI接続した場合も、ピンコードでの接続は必要です。
- 製品によっては、RI接続しても一部の機能が働かないことがあります。



本機にRI接続した機器が2つのRI端子を持っている場合は、もう一方のRI端子にさらにRI端子付きの機器を接続することができます。

スピーカーを接続する

まずお持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。
サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。

本体には2系統のスピーカーシステム端子（SPEAKERS A, SPEAKERS B）があります。（☞34ページ）

サラウンド音声を再現するための標準的なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **センタースピーカー**
  映画におけるセリフの中央定位の役割をになう重要なスピーカーです。
- **左右サラウンドスピーカー**
  音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。
- **サラウンドバックスピーカー**
  Dolby Digital EXやDTS-ESで楽しむときに必要です。効果音や臨場感をより一層高めます。
- **サブウーファー**
  迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。

サラウンド音声を再現するのに最低限必要なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **左右サラウンドスピーカー**
  センタースピーカーやサブウーファーの音声は、左右フロントスピーカーに最適に配分され、可能な限り最高のサラウンド音声を再現します。

スピーカーの配置

スピーカーの配置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と配置するポイントを紹介します。

設置のポイント

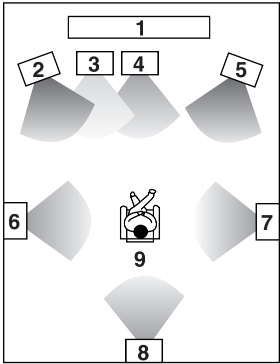
左右フロントスピーカーとセンタースピーカー

- 3つのスピーカーがすべて同じ高さになるように設置する。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向かうように配置する。
- 左右フロントスピーカーは、同じ距離に配置する。

左右サラウンドスピーカー
視聴者の耳より1m高い位置に設置する。

サラウンドバックスピーカー
視聴者の耳より1m高い位置に設置する。

サブウーファー
低音の効果を最大限に得るためには、サブウーファーを設置してください。

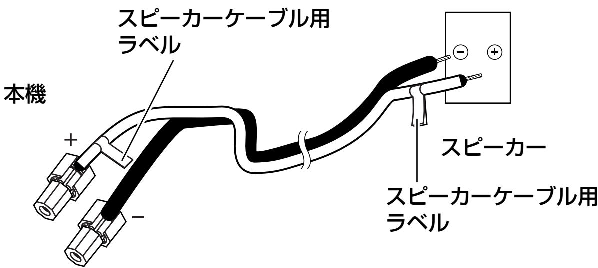


1 テレビまたはスクリーン
2 左フロントスピーカー
3 サブウーファー
4 センタースピーカー
5 右フロントスピーカー
6 左サラウンドスピーカー
7 右サラウンドスピーカー
8 サラウンドバックスピーカー
9 リスニングポジション

付属のスピーカーケーブル用ラベルの使い方

本機のスピーカー端子は（+）側に色をつけて識別しやすくしていますので、付属のスピーカーラベルをスピーカーケーブルに貼ることにより、スピーカーを確実に接続することができます。

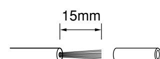
スピーカーケーブルにラベルを貼り、ラベルと同じ色のスピーカー端子に接続してください。

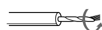


各端子は以下のように色分けされています。

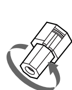
左フロント（+）	：	白
右フロント（+）	：	赤
センター（+）	：	緑
左サラウンド（+）	：	青
右サラウンド（+）	：	灰色
サラウンドバック（+）	：	茶

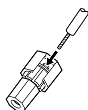
スピーカーコードの接続



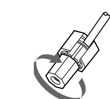


1. スピーカーコードの被覆を15mmカットする
2. しん線の先端をしっかりとよじる



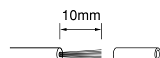


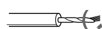




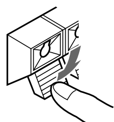
3. ねじをゆるめる
4. しん線を差し込む
5. ねじを締め付ける

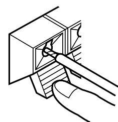
（スピーカーB端子）

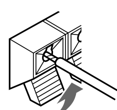




1. スピーカーコードの被覆を10mmカットする
2. しん線の先端をしっかりとよじる







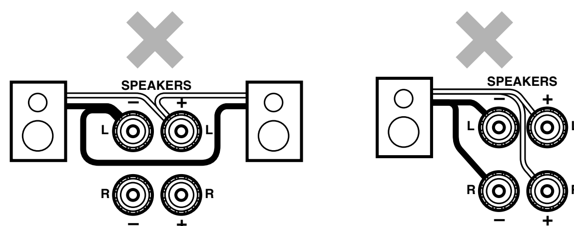
3. レバーを押して広げる
4. しん線を差し込む
5. 指をはなすとレバーが元の位置に戻る。しん線がわずかに外にでるようにする

スピーカーの接続

スピーカーの配置が終わったら、今度は本機との接続をします。

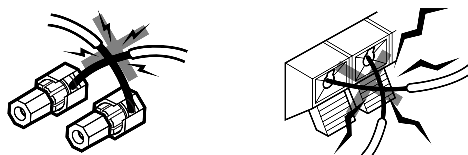
ご注意

- **本機には、インピーダンスが6Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。インピーダンスが6Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。**
- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- サラウンド再生やマルチチャンネル再生をするには、SPEAKERS Aシステムをオンにしてください。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。



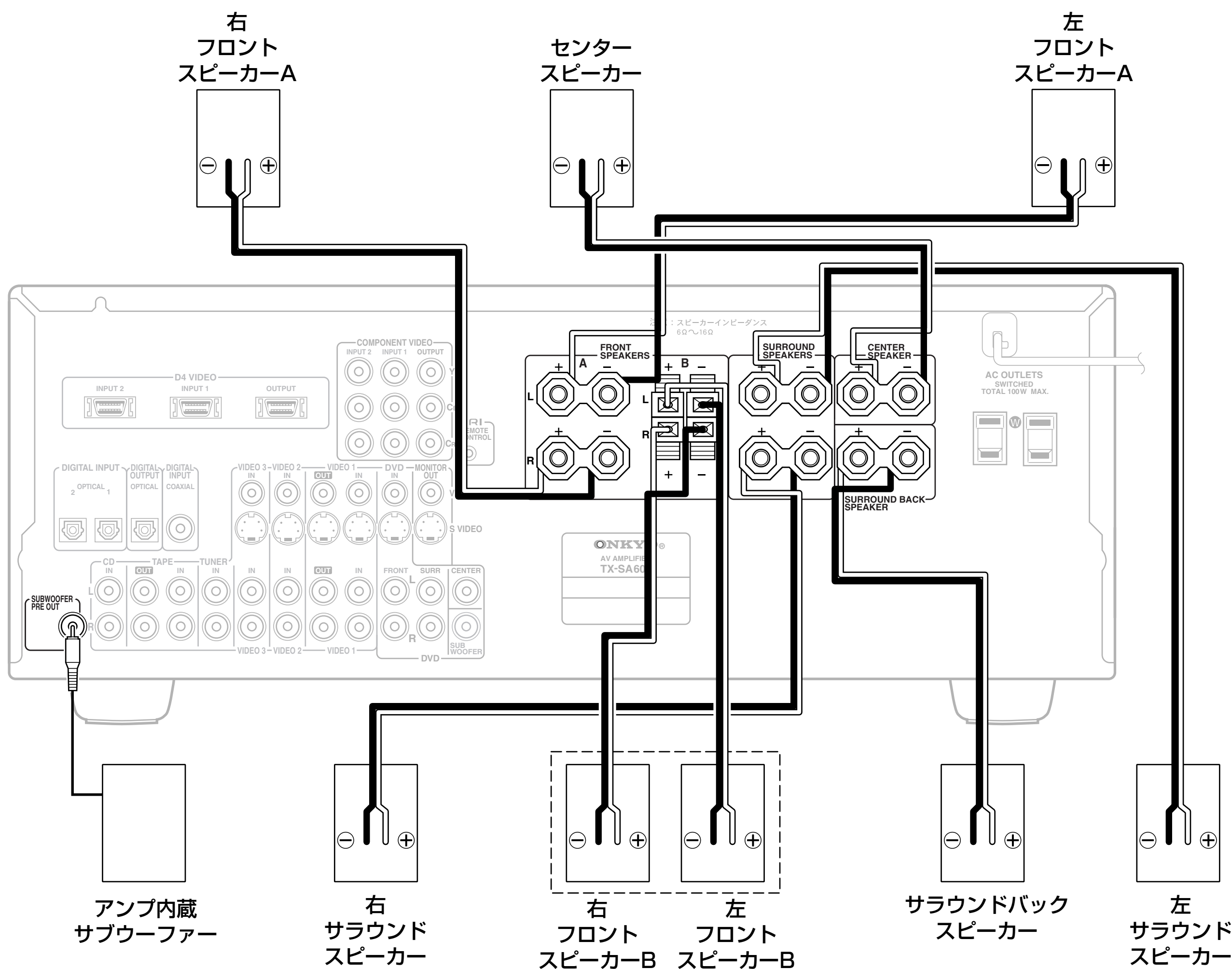
サブウーファーの接続

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを、SUBWOOFER PRE OUT 端子に接続します。

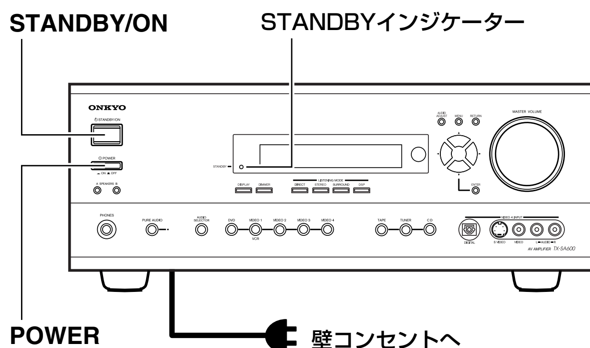
アンプを内蔵していないサブウーファーの場合は、アンプをSUBWOOFER　PRE OUT端子に接続し、サブウーファーをアンプに接続してください。

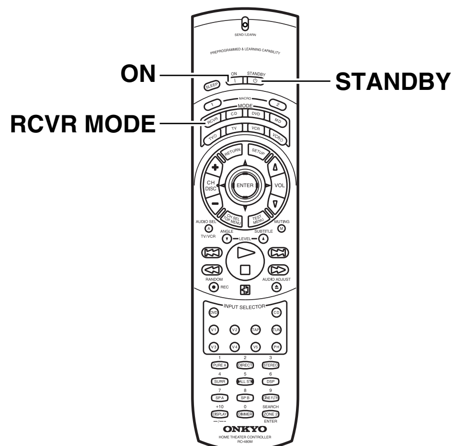
スピーカーBの接続

別の部屋に設置するなど、左右フロントスピーカーを使用するときは、FRONT　SPEAKERS　B端子に接続してください。



電源を入れる





接続する前に

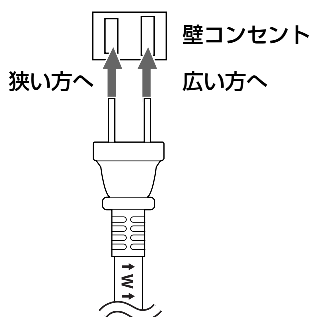
- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。
- 電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの矢印（↑W↑）の方を家庭用の電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。

ご注意　本機を最初にお使いになるときは

本機は主電源スイッチ（POWER）を入（▁ ON）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、下記の手順2と同じ状態になります。

■ 本機で電源を入れる

1. 家庭用ACコンセントに電源コードを接続する



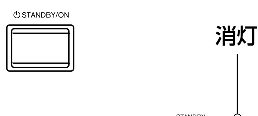
2. POWERスイッチを押して主電源を入れる

本機はスタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが点灯します。



3. STANDBY/ONボタンを押して電源を入れる

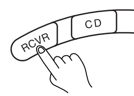
表示部が点灯し、STANDBYインジケーターが消灯します。もう一度STANDBY/ONボタンを押すと、スタンバイ状態に戻ります。



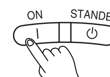
■ リモコンで電源を入れる

リモコンを操作する前に、「本機で電源を入れる」のステップ1〜2により本機をスタンバイ状態にしてください。

1. RCVR MODEボタンを押す



RCVR MODEボタンが緑色に点灯します。



2. ONボタンを押して、本体の電源を入れる（スタンバイ状態を解除する）

スタンバイ状態に戻すには、STANDBYボタンを押します。

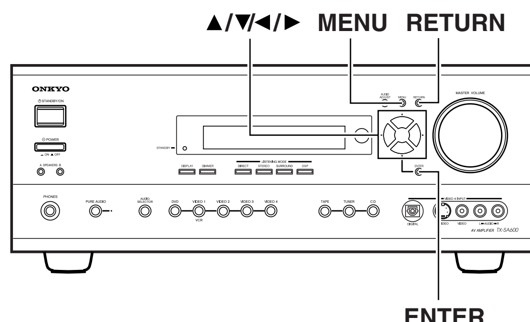
メモリー保持について

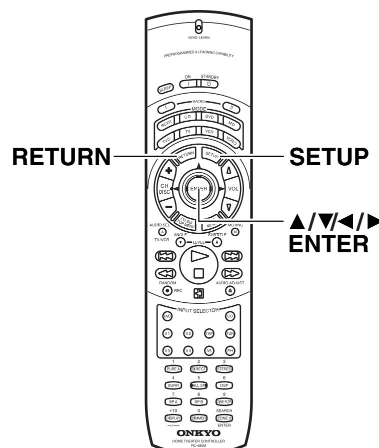
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したスピーカー設定やサラウンド設定などを停電時などに保持するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などをひろって誤動作するときがあります。このようなときは、主電源スイッチ（POWER）を切（▇ OFF）にし、5秒以上たってから再度入（▁ ON）にしてください。

スピーカーの設定をする





映画や音楽を楽しむための最適な音場環境をつくり上げるために、各スピーカーの大きさや視聴位置からスピーカーまでの距離を設定することが必要です。
スピーカー構成や配置を変えない限り、通常は一度設定したら変える必要はありません。
接続が完了したら、操作の前に、以下の手順でスピーカーの設定を行ってください。設定は、オンスクリーンディスプレイ機能*を使うと便利です。

***オンスクリーンディスプレイ（OSD）機能とは**
操作内容などのメニューを本機に接続したモニター（テレビやプロジェクター）に表示する機能です。

メインメニューを表示する

メインメニューを表示する

本体のMENUボタンまたはリモコンのSETUPボタンを押して、モニターと表示部にメインメニュー（Menu）を表示させます。
もう一度MENUボタンまたはリモコンのSETUPボタンを押すと、メインメニュー画面が終了します。

本機



リモコン




```
* Menu *****************

 1.Speaker Config
 2.Speaker Distance
 3.Level Calibration
 4.Input Setup
 5.OSD Setup
 6.Preference

 ▲▼|ENTER|Quit:|SETUP|
```

1.Sp Config

モニターにメニューが表示されないときは

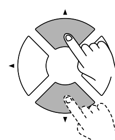
メニューは、初期設定では本機のVIDEO端子に接続したモニターに表示されますので、モニターを本機のS VIDEO端子に接続している場合は表示されません。メニューを本機のS VIDEO端子に接続しているモニターに表示するためには、以下の操作を行って表示先を変更してください。

1. **MENUボタンを押す**
2. **▲/▼ボタンを押して本機の表示部に「5. OSD Setup」を表示させ、ENTERボタンを押す**
3. **▲/▼ボタンを押して「OSD Output」を表示させ、◀/▶ボタンを押して「S Video」を表示させる**
4. **MENUボタンを押して終了する。**

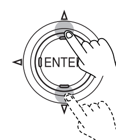
スピーカーの有無と大きさを設定する（スピーカーコンフィグ）

1. **メインメニューを表示する**
2. **▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Config」（スピーカーコンフィグ）を選ぶ**

本機



リモコン



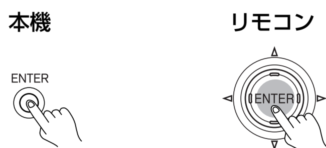
```
* Menu *****************

 1.Speaker Config
 2.Speaker Distance
 3.Level Calibration
 4.Input Setup
 5.OSD Setup
 6.Preference

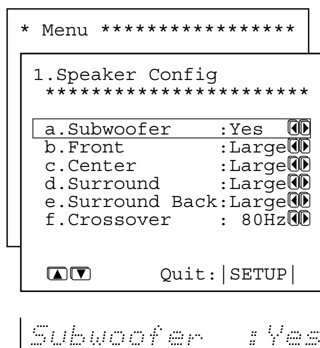
 ▲▼|ENTER|Quit:|SETUP|
```

1.Sp Config

3. **ENTERボタンを押す**



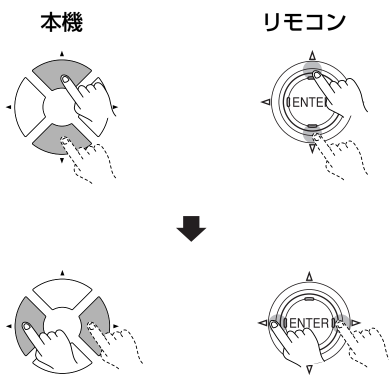
スピーカーコンフィグメニューが表示されます。



4. **▲/▼ボタンを押して「a. Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

Yes：サブウーファーを接続している

No：サブウーファーを接続していない



5. **▲/▼ボタンを押して「b. Front」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

Large：大型のフロントスピーカーを接続している

Small：小型のフロントスピーカーを接続している

- 「Subwoofer」の設定で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

6. **▲/▼ボタンを押して「c. Center」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

None：センタースピーカーを接続していない

Large：大型のセンタースピーカーを接続している

Small：小型のセンタースピーカーを接続している

- 「Front」の設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

7. **▲/▼ボタンを押して「d. Surround」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

None：左右サラウンドスピーカーを接続していない
Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している
Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している

- 「Front」の設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

8. **▲/▼ボタンを押して「e. Surround back」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

None：サラウンドバックスピーカーを接続していない

Large：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している

Small：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している

- 「Surround」の設定で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。
- 「Surround」の設定で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

9. **▲/▼ボタンを押して「f. Crossover」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

Crossover（低音域の管理）80/100/120Hz

使用しているスピーカーシステムに対するクロスオーバー周波数を設定します。
80Hz、100Hzまたは120Hzを選びます。
各スピーカーが分担する周波数の境界をクロスオーバー周波数といいます。
選んだ周波数よりも低い低音域は、「Small」に設定されたスピーカーではカットされ、サブウーファーまたは「Large」に設定したスピーカーから出力されます。
この設定が有効となるのは、「Speaker Config」にある「Subwoofer」の設定が「Yes」の場合、またはスピーカーが「Small」に設定されている場合です。

RETURNボタンを押すとメインメニュー画面に戻ります。
MENUボタン（またはリモコンのSETUPボタン）を押すとメニューを終了します。

スピーカーから視聴位置までの距離を設定する（スピーカーディスタンス）

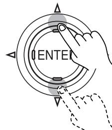
各スピーカーは、0.3～9mの範囲、0.3m単位(1～30ftの範囲、1.0ft単位)で設定できますので、実際の距離に近い値を選んでください。

ご注意

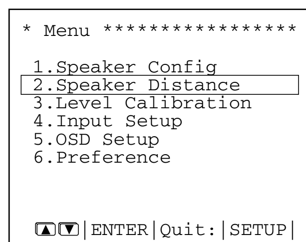
「Speaker Config」設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。

1. **メインメニューを表示させ、▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Distance」（スピーカーディスタンス）を選び、ENTERボタンを押す**

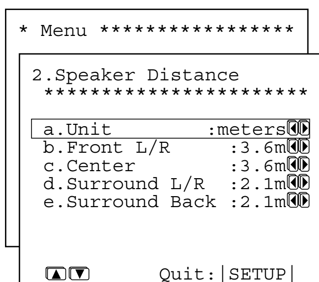
   スピーカーディスタンスメニューが表示されます。







2.Sp Distance



Unit :meters

2. **▲/▼ボタンを押して「a. Unit」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

   feet：距離をフィートで指定する

   meters：距離をメートルで指定する

3. **▲/▼ボタンを押して「b. Front L/R」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

   左右フロントスピーカーから通常の視聴位置までの距離を設定します。

4. **▲/▼ボタンを押して「c. Center」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

   センタースピーカーから通常の視聴位置までの距離を設定します。

ご注意

フロントスピーカーより大きい値には設定できません。また、フロントスピーカーから1.5m引いた値より小さい値にも設定できません。

5. **▲/▼ボタンを押して「d. Surround L/R」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

   サラウンドスピーカーから通常の視聴位置までの距離を設定します。

ご注意

フロントスピーカーより大きい値には設定できません。また、フロントスピーカーから4.5m引いた値より小さい値にも設定できません。

6. **▲/▼ボタンを押して「e. Surround back」を選び、◀/▶ボタンを押して設定する**

   サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を設定します。

RETURNボタンを押すとメニュー画面に戻ります。
MENUボタン（またはリモコンのSETUPボタン）を押すとメニューを終了します。

スピーカーレベルを調整する（レベルキャリブレーション）

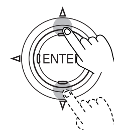
各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように設定します。正しい音場再生をするためには、必ず設定してください。

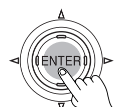
ご注意

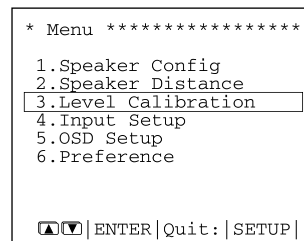
マルチチャンネル音声を使用する場合、ここで行ったスピーカーレベル設定は無効になります。マルチチャンネル音声のスピーカーレベルは、リモコンのCH SEL、LEVEL▲/▼ボタンを使って調整します（☞35ページ「DVDプレーヤーをマルチチャンネル音声で楽しむ」）。

1. **メインメニューを表示させ、▲/▼ボタンを押して「3. Level Calibration」（レベルキャリブレーション）を選び、ENTERボタンを押す**

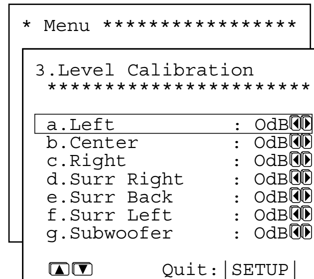
   レベルキャリブレーションメニューが表示されます。







3.Level Cal

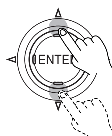


Left : 0dB

ご注意

「Speaker Config」設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。

2. ▲/▼ボタンを押して「a. Left」を選ぶ
テスト音が左フロントスピーカーから出ます。



(1) このテスト音の大きさを記憶し、▼ボタンを押すと、テスト音がセンタースピーカーから出ます。
(2) センタースピーカーから出るテスト音が左フロントスピーカーのときと同じ大きさに聞こえるように、◀/▶ボタンで調整します。
(3) ▼ボタンを押します。テスト音が右フロントスピーカーから出ます。左フロントスピーカー、センタースピーカーと同じ大きさに聞こえるように、◀/▶ボタンで調整します。
(4) 同様に▼ボタンを押してスピーカーを選び、すべてのスピーカー（左フロント、センター、右フロント、右サラウンド、サラウンドバック、左サラウンド、サブウーファー）から出るテスト音が同じ大きさに聞こえるように調整します。

テスト音のレベルは、－12dB～+12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

RETURNボタンを押すとメニュー画面に戻ります。
MENUボタン（またはリモコンのSETUPボタン）を押すとメニューを終了します。

リモコンのTESTボタンを使ってレベル調整する（リモコン操作）

1. TESTボタンを押す
テスト音が左フロントスピーカーから出ます。



(1) このテスト音の大きさを記憶し、CH SELボタンを押すと、テスト音がセンタースピーカーから出ます。
(2) センタースピーカーから出るテスト音が左フロントスピーカーのときと同じ大きさに聞こえるように、LEVEL ▲/▼ボタンで調整します。
(3) CH SELボタンを押します。テスト音が右フロントスピーカーから出ます。左フロントスピーカー、センタースピーカーと同じ大きさに聞こえるように、LEVEL▲/▼ボタンで調整します。
(4) 同様にCH SELボタンを押してスピーカーを選び、すべてのスピーカー（左フロント、センター、右フロント、右サラウンド、サラウンドバック、左サラウンド、サブウーファー）から出るテスト音が同じ大きさに聞こえるように調整します。

テスト音のレベルは、－12dB～+12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

2. TESTボタンを押して終了する

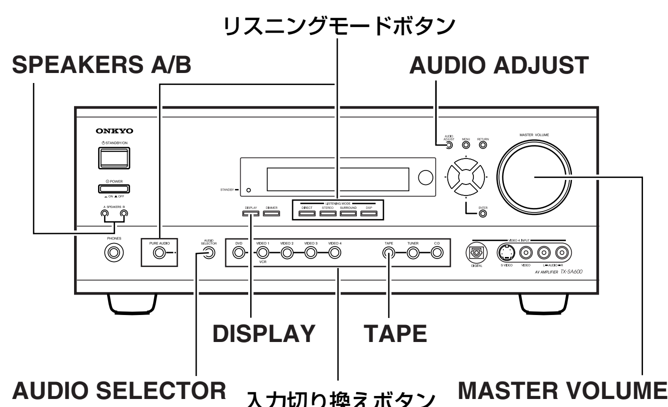


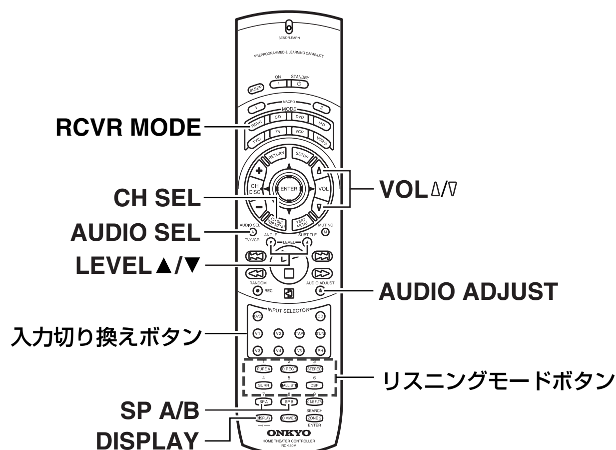
メニュー操作に使用するボタン

メニュー操作は本機とリモコンの両方で行えます。
リモコンの各ボタンと本機のボタンとの対応は下の表のようになっています。

リモコン	本機
メインメニューを表示させる、メニュー操作を終了する	
SETUP	メニュー
メニュー画面や設定項目を選ぶ	
ENTER ボタンの上端	上へ
ENTER ボタンの下端	下へ
値（パラメーター）を選ぶ	
ENTER ボタンの左端	左へ
ENTER ボタンの右端	右へ
メニュー画面を選ぶ	
ENTER ボタンの中央	選ぶ
ひとつ前の画面に戻る	
RETURN	戻る

機器を選んで演奏する



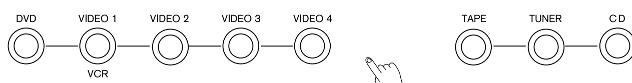


基本操作

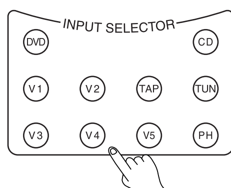
リモコンで操作するときは、はじめにRCVR MODEボタンを押してください。

1. 演奏したい入力切り換えボタンを押す

本機



リモコン



V5、PHは本機では使用しません。

選んだ入力ソースが表示部に表示されます。
DVDプレーヤーをマルチチャンネル音声で楽しむときは、「DVDプレーヤーをマルチチャンネル音声で楽しむ」（☞35ページ）をご覧ください。

2. 表示部にSPEAKERS A（A）表示が点灯していることを確認し、点灯していないときはSPEAKERS Aボタンを押す



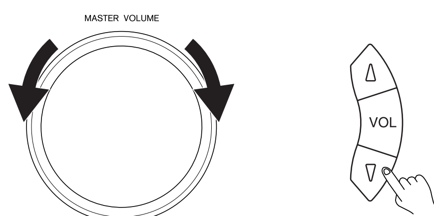
詳しくは「SPEAKERS A/Bボタンの使いかた」（☞34ページ）をご覧ください。

3. 選んだ機器の演奏を始める

演奏する機器の取扱説明書をご覧ください。

4. 音量を調整する

左右フロントA、センター、左右サラウンド、サラウンドバックスピーカーおよびサブウーファーの音量を調整します。
右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。リモコンでは、∆ボタンを押すと音量が上がり、∇ボタンを押すと下がります。（☞15ページ）



- リスニングモードを選ぶには（☞38ページ）
- Audio Adjust（オーディオアジャスト）メニューで音質調整ができます。（☞44ページ）

音が出ないときは

DVDプレーヤー、CDプレーヤーなどデジタル機器を選んだときは、「Input Setup」の「Digital Input」（デジタル入力の割り当て）を確認してください。（☞40ページ）

オーディオ信号の種類を選ぶ

AUDIO SELECTORボタンを押すたびに、Auto→Multich（入力ソースがDVDのときのみ）→Analogと表示が切り換わります。

本機



リモコン



Auto（自動識別）：入力信号のデジタル/アナログを自動識別します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。この設定は、いずれかのデジタル入力が選択されているとき有効です。（☞40ページ）

Multich（マルチチャンネル入力）：DVDプレーヤーをマルチチャンネル音声で再生するとき選びます。この設定は、Multichannel（☞35ページ）が「Yes」になっているとき有効です。

Analog（アナログ入力）：アナログ信号を再生します。この設定では、同じ機器からデジタル信号が入力されていても、アナログ信号を選択します。

SPEAKERS A/Bボタンの使いかた

SPEAKERS A：フロントスピーカーA、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーおよびサブウーファー端子に接続したスピーカーシステムをオン/オフします。サラウンドを再生するときやマルチチャンネル音声を再生するときは、スピーカーAシステムをオンにしてください。このシステムがオンになっている（選択されている）ときは、（A）表示が点灯します。

SPEAKERS B：フロントスピーカーB端子に接続したスピーカーシステムをオン/オフします。このシステムがオンになっている（選択されている）ときは、（B）表示が点灯します。

ご注意

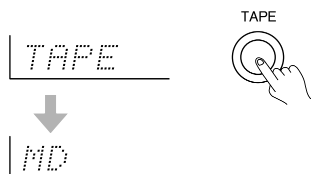
サラウンド音声やマルチチャンネル音声を再生するときは、スピーカーBシステムはオフにしてください。スピーカーA、Bシステム両方がオンになっている時は、スピーカーAシステムで選べるリスニングモードは「Stereo」、「Direct」、「Pure Audio」のみになります。（サブウーファーからは音が出ます。）またマルチチャンネル音声再生時は、センター、左右サラウンド、サラウンドバック、サブウーファーからの音が出ません。

表示部の入力表示をTAPEからMDに切り換える

本機のTAPE端子にMDレコーダーが接続されている場合、TAPEボタンを押したときに、MDと表示させることができます。表示を変えることによって、オンキヨー製のMDレコーダーをRI接続している場合は、RIシステム操作が可能になります。

表示を変えるには

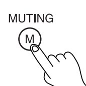
TAPEボタンを、TAPE表示がMDに切り換わるまで（約3秒間）押し続けます。



表示を元に戻すには、同じ操作をします。
この設定は、接続したオンキヨー製のカセットデッキやMDレコーダーのRIシステム機能を有効にするために必要です。

音を一時的に小さくする（MUTING）

音楽を聞いているときに、電話がかかってきてすぐに音を下げたいときなどに役立ちます。ボタンを押すと、本機の表示部に「Muting」の表示が現れ、MUTING表示が点滅し、スピーカーとヘッドホンの音声出力が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

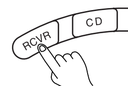


スピーカーレベルを一時的に調整する

各スピーカーのレベルを一時的に－12dB～＋12dBの範囲で調整することができます。この調整値は本機がスタンバイ状態になると解除されます。

リモコンで操作する

1. RCVR MODEボタンを押す



2. CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ



3. LEVEL ▲または▼ボタンを押して、音量を調整する

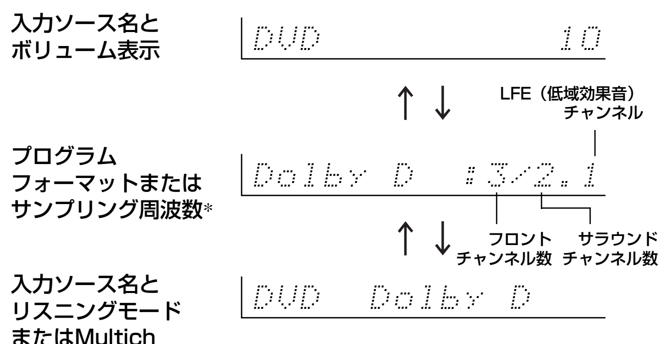


ご注意

- 「Speaker Config」設定で、「No」または「None」になっているスピーカーはレベル調整できません。
- 音量を上げたときに表示される値は、接続しているスピーカーをすべて0dBに設定している場合と、接続しているスピーカーの内1つでも0dB以外に設定している場合とでは異なった数値が表示されます。
  例：すべてのスピーカーを0dBに設定している場合、音量を上げていくと、…98, 99, MAX（最大）と表示されますが、たとえば左（LEFT）スピーカーを+5dBに設定していた場合は、+5dBが差し引かれて…93, 94, MAX（最大）と表示されます。
- レベル調整したあとにTESTボタンを押すと、TESTボタンを使って設定したレベルが上書きされます。

表示部の表示内容を変える

DISPLAY ボタンを押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。



*** 入力信号が、デジタル音声のとき**

プログラムフォーマットを表示します。たとえば、「Dolby D：3/2.1」と表示されたら、ドルビーデジタルで、フロントが3チャンネル（左右フロントとセンター）、サラウンドが左右2チャンネル、LFE（低域効果音）があり、それぞれが独立して記録された5.1チャンネルソースであることを表します。フロントチャンネル数が2のときは左右フロント、1のときはモノラルです。サラウンドチャンネル数が1のときはモノラル、0のときはなしです。LFEが0のときは、LFEなし、です。
また、入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。

入力信号がリニアPCMのとき

サンプリング周波数を表示します。たとえば「PCM fs：44.1k」と表示されたら、PCM信号でサンプリング周波数が44.1kHzであることを表します。

DVDプレーヤーをマルチチャンネル音声で楽しむ

操作の前に、マルチチャンネル出力を備えたDVDプレーヤーが正しく接続されていること、および「Input Setup」の「Multichannel」の設定が「Yes」になっていることを確認してください。（☞41ページ）

1. 入力切り換えボタンのDVDを押す

2. フロントパネルのAUDIO SELECTORボタン（またはリモコンのAUDIO SELボタン）を押して、“Multich”を選ぶ

本機　　リモコン



3. DVDプレーヤーの電源を入れ、ソースを再生する

4. MASTER VOLUMEつまみ（またはリモコンのVOL ∆/∇ボタン）で音量を調整する

各スピーカーの音量を調整するには
（「スピーカーレベルを一時的に調整する」（☞34ページ）参照）

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーは、－12dB～＋12dBの範囲で、サブウーファーは－30dB～＋12dBの範囲で調整できます。

音質を調整するには

マルチチャンネルのトーンコントロール機能を「On」（オン）にすると音質を調整できます（設定が「Off」（オフ）のときは音質調整はできません）。

トーンコントロール機能をオンにするには

1. SURROUND（またはリモコンのSURR）ボタンを押す

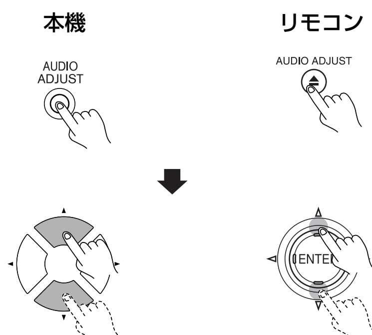
本機　　リモコン



「Tone On」と表示され、トーンコントロール機能がオンになります。

2. AUDIO ADJUSTボタンを押し、▲/▼ボタンを押してBass（またはTreble）を選ぶ

本機　　リモコン



3. ◀/▶ボタンを押して値を選ぶ（☞44ページ）

本機　　リモコン



トーンコントロール機能をオフにするには

DIRECTボタンを押す

本機　　リモコン



「Tone Off」と表示され、トーンコントロール機能がオフになります。

ご注意

- マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、テストトーンで設定したスピーカーレベルとは独立していますので反映されません。
- 音量を上げたときに表示される値は、接続しているスピーカーをすべて0dBに設定している場合と、接続しているスピーカーの内1つでも0dB以外に設定している場合とでは異なった数値が表示されます。
  例：すべてのスピーカーを0dBに設定している場合、音量を上げていくと、…98, 99, MAX（最大）と表示されますが、たとえば左（LEFT）スピーカーを+5dBに設定していた場合は、+5dBが差し引かれて…93, 94, MAX（最大）と表示されます。
- マルチチャンネル入力時は、PURE AUDIOボタンで「Pure Audio」は選べます。「Pure Audio」を解除するには、DIRECTまたはSURROUNDボタンを押してください。

リスニングモードを使う

本機のサラウンドシステムを使うとご家庭でも映画館やコンサートホールにいるような臨場感を楽しむことができます。
あらかじめ、スピーカーの接続（☞26ページ）とスピーカーの設定（☞29～32ページ）が正しく行われていることをお確かめください。
一度設定した内容は、演奏のたびに設定する必要はありません。また、リスニングモードの選びかたについては、38ページをご覧ください。

Dolby Digital（Dolby D)（ドルビーデジタル）
ドルビーデジタルソースを再生するために使用します。
ドルビーデジタルは、AC-3方式で圧縮されたデジタルデータです。最大5.1チャンネル*のサラウンド音声を提供します。ソースとしてDOLBY DIGITALマークが付いたDVDやLDなどがあります。ドルビーデジタル対応のデジタル衛星放送でも使用されています。

＊ **5.1チャンネルデジタルオーディオフォーマットについて**
5.1チャンネルとは、フルレンジ（20Hz～20kHz）の5チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生するデジタル・オーディオ・フォーマットで、ドルビーデジタルや、DTS、MPEG-2 AACなどがあります。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。

Dolby Digital EX（ドルビー・デジタル・イーエックス）
サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digitalソースをマトリックス6.1チャンネル再生します。

DTS（ディーティーエス）
DTSソースを再生するために使用します。
DTS（デジタルシアターシステム）は、最大5.1チャンネル（DTS-ES Discreteの場合は最大6.1チャンネル）のサラウンド出力が可能な圧縮されたデジタルデータです。きわめて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。ソースとしてdtsマークが付いたCD、DVD、LDなどがあります。

DTS-ES Discrete 6.1（ディーティーエス・イーエス・ディスクリート6.1）
追加されたサラウンドバックチャンネルを含め、6.1チャンネルすべてがデジタルディスクリートで独立して記録される新フォーマットです。全チャンネルが独立記録されているため、セパレーション感の高いサラウンド再生が可能となります。

DTS-ES Matrix 6.1（ディーティーエス・イーエス・マトリックス6.1）
追加されたサラウンドバックチャンネルをあらかじめ左右サラウンドチャンネルへマトリックスエンコードして挿入し、再生時に高精度マトリックスデコーダーによって左右サラウンド、サラウンドバックの各チャンネルにデコードするフォーマットです。

AAC（エーエーシー）
AACソースを再生するために使用します。
MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータです。最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。BSデジタル放送に採用されています。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジックII）
ドルビープロロジックが「左右フロント」「センター」「モノラルのサラウンドチャンネル」の4チャンネル信号をマトリックス処理によって2チャンネルに記録し、再生時に4チャンネルに復元していたのに対し、ドルビープロロジックIIは、フィードバックロジック回路により、ドルビーサラウンドなど2チャンネルにマトリックスエンコードされた信号を元の状態に正確に組み替え、5.1チャンネル再生をしています。

映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。

Movieモードでは、従来モノラルで、音域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。

Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。

DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のTV番組再生時に楽しむことができます。また、MusicモードはCDなどのステレオ音楽で楽しむことができます。

DTS Neo:6（ディーティーエス・ネオ・シックス）
PCMやアナログ音源など、2チャンネルのソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間のセパレーションも優れています。

DTS Neo:6モードでは、映画の再生に適したCinemaモードと音楽の再生に適したMusicモードの2種類を切り換えることができます。

映画鑑賞に適したCinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドサウンドが再現されます。音声がステレオのVHSソフトやテレビ番組などに使用します。

音楽再生に適したMusicモードは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。音楽CDをはじめとする各種ステレオ音源の再生に使用します。

Direct（ダイレクト）
音質調整やフィルターを効かさずピュアな音を聞くことができます。

ステレオサウンドを聞いていただくためソースの音声は左右フロントスピーカーでのみ再生され、サブウーファーからは出力されません。

Pure Audio（ピュアオーディオ）
Pure AudioではDirectモードに加え、表示部を消して、さらにビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にし、より原音に忠実な音楽再生を行います。

ご注意

コンポーネント映像はそのまま出力されます。

Stereo（ステレオ）
すべての音声が左右のフロントスピーカーから出力されます。サブウーファーを使うこともできます。

オンキョー独自のサラウンドモード（DSP）

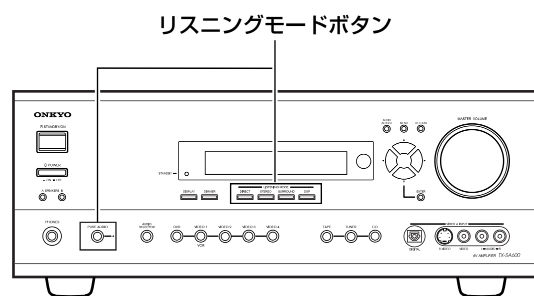
Orchestra（オーケストラ）
クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

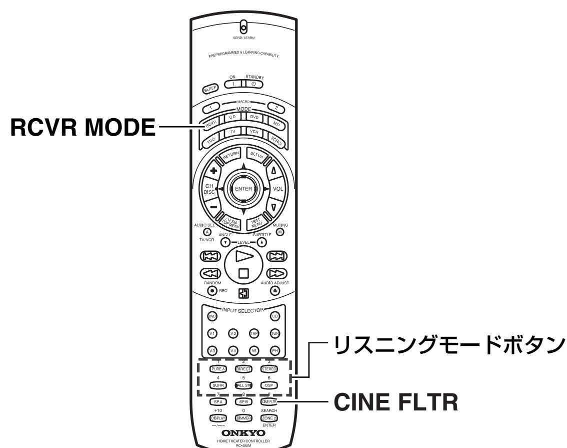
Unplugged（アンプラグド）
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix（スタジオミックス）
ロックやポップに適したモードです。生き生きとした躍動感にあふれ、まるでライブハウスにでもいるかのような、迫力ある音場イメージが特長です。

TV Logic（TVロジック）
スタジオ収録のTV番組で、豊かな臨場感を楽しむためのモードです。全体的なサラウンド感とセリフの明瞭度を高めています。

All Ch Stereo（オールチャンネルステレオ）
BGMとして音楽をかける時に便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージをつくり出します。





リスニングモードを選ぶ

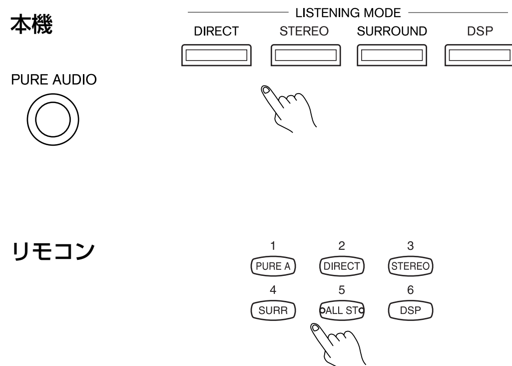
- 各リスニングモードの詳細については、36ページをご覧ください。
- 選べるリスニングモードは入力信号のフォーマットによって異なります。（☞42ページ）
- Dolby Digital、DTSソフトまたはAACソースの再生時、リスニングモードは自動的にDolby Digital、DTSまたはAACになります。

ヒント

入力ソースごとにリスニングモードを設定することができます。（☞42ページ）

リモコンで選ぶときは、はじめにRCVR MODEボタンを押してください。

設定したいリスニングモードのボタンを押す



PURE AUDIO（PURE A）：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをPure Audioに切り換えます。
「Input Setup」（☞42ページ）で設定したリスニングモードもPure Audioに変わります。

DIRECT：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをDirectに切り換えます。
「Input Setup」（☞42ページ）で設定したリスニングモードもDirectに変わります。

STEREO：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをStereoに切り換えます。
「Input Setup」（☞42ページ）で設定したリスニングモードもStereoに変わります。

SURROUND（SURR）：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードを入力信号に合ったサラウンド（Dolby Digital、Dolby Pro Logic II、DTS、DTS Neo:6またはAAC）に切り換えます。
「Input Setup」（☞42ページ）で設定したリスニングモードもサラウンドに変わります。

リスニングモードがサラウンドの時

・DTSソース再生時

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、DTSソースをマトリックス6.1チャンネル再生するかどうかを設定します。
ボタンを押すごとにDTS-ESのAuto（自動切り換え）→On→Offが切り換わります。

Auto：DTS-ESフラグ（DTS-ESの識別信号）があるDTSソースの場合、自動的にDTS-ES Discrete 6.1、もしくはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わります。フラグがなければ、DTS再生になります。

On：DTS-ESフラグがあれば、自動的にDTS-ES Discrete 6.1もしくはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わります。フラグがない場合でも、強制的にDTS-ES Matrix 6.1再生になります。

Off：DTS-ESフラグがあっても、DTS-ES再生は行いません（常にDTS再生になります）。

・Dolby Digital（マルチチャンネル）ソース再生時

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digitalソースをマトリックス6.1チャンネル再生するかどうかを設定します。
ボタンを押すごとに、Dolby Digital EXのAuto（自動切り換え）→On→Offが切り換わります。

Auto：EXフラグ（Dolby Digitalの識別信号）があるソースの場合、自動的にDolby Digital EX再生になります。

EXフラグがなければ、Dolby Digital再生になります。

On：EXフラグがあれば、自動的にDolby Digital EX再生になります。EXフラグがない場合でも、強制的にDolby Digial EX再生になります。

Off：EXフラグがあっても、Dolby Digital EX再生を行いません（通常のDolby Digital再生になります）。

ただし、サラウンドチャンネルがモノラルまたは無しのときは、上記の設定にかかわらず、通常のDolby Digital再生になります。

・Dolby Digital（2チャンネル）ソース再生時
ボタンを押すごとに、Pro Logic II MovieとPro Logic II Musicが切り換わります。

・Analog/PCMソース再生時
ボタンを押すごとに、Pro Logic II Movie→Pro Logic II Music→DTS Neo6:Cinema→DTS Neo6:Musicが切り換わります。
「Speaker Config」の設定で、サラウンドスピーカーを「None」にしているときは、DTS Neo6:Musicは選べません。

ALL ST（リモコンのみ）：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをAll Ch Stereoに切り換えます。
「Input Setup」（☞42ページ）で設定したリスニングモードもAll Ch Stereoに変わります。

DSP：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードを次のように切り換えます。
Orchestra→Unplugged→Studio Mix→TV Logic→All Ch Stereo→Orchestra･･･
「Input Setup」（☞42ページ）で設定したリスニングモードも変わります。

シネマフィルター（CinemaFILTER機能）について

CinemaFILTER機能は、高音域が強調された映画のサウンドトラックの高音域のレベルをホームシアター用に補正する機能です。この機能は、フロントスピーカーからのサウンドの高音域が強すぎる場合に設定します。
CinemaFILTERの設定は、Dolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、DTS、DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1、DTS Neo:6 Cinema、またはAACの各モードの場合のみ有効となります。

リモコンのCINE FLTRボタンを押す。

現在の設定が表示されます。もう一度押すと設定が切り換わります。

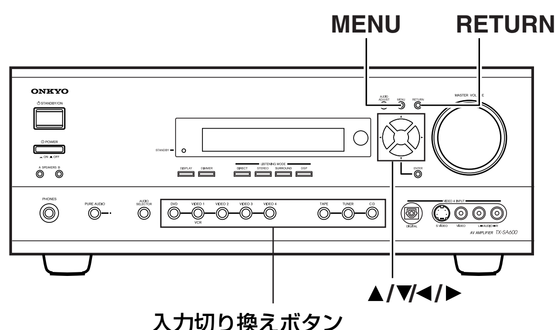
On：シネマフィルター機能が働きます。

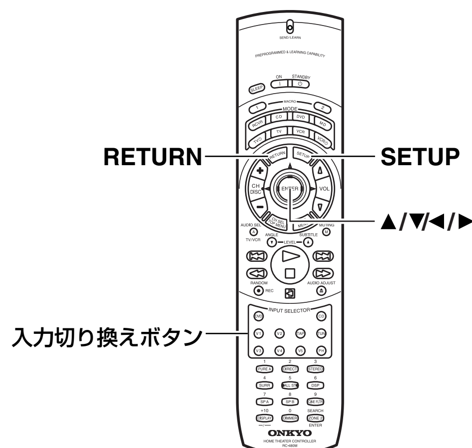
Off：シネマフィルター機能は働きません。

ご注意

Dolby Pro Logic II Movie、DTS Neo：6 Cinema、Dobly Digital、DTS、AACはマルチチャンネル再生時のみ有効です。

入力ソースごとの設定（Input Setup）





ここで行う設定は入力切り換えボタンで現在選択しているソースに対して有効です。
本機に接続したさまざまな再生機器からの入力信号に対して設定を行います。

操作手順

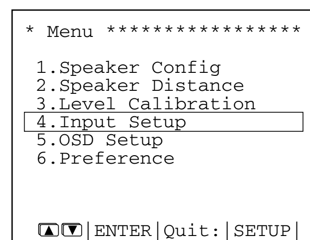
1. **入力切り換えボタンで設定したい入力ソースを選ぶ**

2. **MENUボタン（本体）またはSETUPボタン（リモコン）を押す**

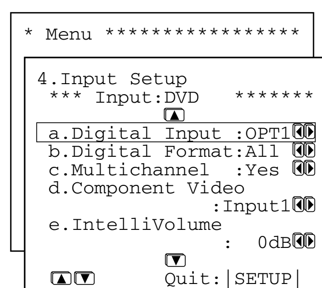
   メインメニューが表示されます。

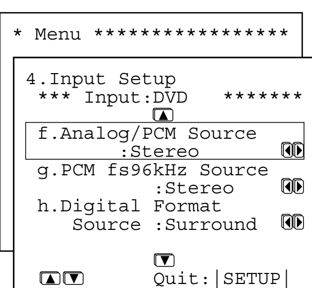
3. **▲/▼ボタンを押して「4. Input Setup」を選び、ENTERボタンを押す**

   インプットセットアップメニューが表示されます。



4.Input Setup





D.Input :OPT1

A/PCM:Stereo

4. **▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで値を選ぶ**

RETURNボタンを押すとメインメニュー画面に戻ります。

SETUPボタン（またはリモコンのMENUボタン）を押すとメニュー表示を終了します。

a. Digital Input（デジタル入力）
リアパネルのデジタル入力端子を入力ソースに割り当てます。たとえば、フロントパネルの入力切り換えボタンでCDを選択し、CDプレーヤーをDIGITAL INPUT（OPTICAL）1端子に接続している場合、ここで「OPT1」を選択します。入力切り換えボタンで選択した機器をデジタル入力端子に接続していないときは、「----」を選択します。

OPT1、2：デジタル機器をDIGITAL INPUT（OPTICAL1または2）端子に接続している

COAX：デジタル機器をDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子に接続している

----：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない

初期設定は下の表のようになっています。

入力ソース	デジタル入力
CD	COAX
TUNER	----
TAPE	----
DVD	OPT 1
VIDEO 1	----
VIDEO 2	----
VIDEO 3	OPT 2

---- ：初期設定では割り当てられていません。

ご注意

入力ソースがVIDEO 4のときは、フロントパネルの光デジタル入力固定ですので、設定できません（項目が表示されません）。

b. Digital Format（デジタルフォーマット）

割り当てたデジタル入力端子に、優先して検出を行うデジタル信号を設定します。「Digital Input」の設定で「----」を選択した場合、この項目は表示されません。

初期設定は「All」です。通常は「All」に設定しておきますが、入力信号のフォーマットに合わせて変更できます（たとえば、ある特定のソースの入力信号フォーマットだけしか再生しない場合など）。

All：入力信号のフォーマットを自動的に検出します。選択したソースが使用する信号フォーマット（ドルビーデジタル、DTS、PCM、AAC）が自動的に検出され、必要なデコード処理が行われます。

DTS：DTS信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、DTS信号が入力されたときだけです。

PCM：PCM信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、PCM信号が入力されたときだけです。

ご注意

- 「All」を選択してPCM信号を再生する場合、CDやLDの早送り後の再生時に音飛びが発生することがあります。その場合は、設定を「PCM」に変更してください。
- 「DTS」を選択しているときは、AUDIO SELECTORボタンで「Auto」を選択していてもDTS信号が入力されていない場合は、Analogに切り換わりません。

DTSについてのご注意

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDを「Analog」や「PCM」の設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、アンプやスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTSソースを再生するときは必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、「All」または「DTS」モードの設定で再生してください。
- DTSフォーマットで記録されたCDやLDを「All」モードの設定で再生すると、本機が最初のDTSエンコード信号を識別してDTSデコーダーを作動するまでの短時間、ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。このようなときはDTSモードにして再生してみてください。
- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケーターが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケーターが点灯したままとなります。これは、プレーヤー側で行うポーズやスキップなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り換わるソースでは、PCM信号がすぐには再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータとみなすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。
- 本機のVIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUT、TAPE OUTの各出力端子はアナログ音声を出力しています。このため、DTSフォーマットで録音されたCDやLDを録音しようとする場合、DTSエンコード信号をそのままノイズとして録音することになりますので、アナログ録音はしないでください。
- 「PCM」を選択してDTSフォーマットのCDやLDを再生した場合、ノイズだけが出力されます。DTSフォーマットの信号を再生する場合は、必ず「All」または「DTS」を選択してください。

c. Multichannel（マルチチャンネル）

入力ソースがDVDのときのみ設定できます。
マルチチャンネル音声出力を備えたDVDプレーヤーを接続したときに「Yes」に設定します。初期値は「Yes」です。

ご注意

再生するときは、AUDIO SELECTORボタンでMultichを選んでください。

d. Component Video（コンポーネントビデオ）

COMPONENT VIDEO入力端子、またはD4 VIDEO入力端子（1または2）のいずれかに機器を接続した場合は、ここで入力の設定を行う必要があります。
入力ソースがDVD、VIDEO 1～VIDEO 4のときに設定できます。

初期設定は下の表のようになっています。

選択中のソース	コンポーネント映像入力/D4映像入力
DVD	INPUT 1
VIDEO 1	INPUT 2
VIDEO 2	INPUT 2
VIDEO 3	INPUT 2
VIDEO 4	INPUT 2

e. IntelliVolume（インテリボリューム）

各入力ソース間の音量差をなくす補正をしておくことができます。

接続している機器やソースによって出力レベルが異なるため、入力を切り換えたときに同じボリューム位置にしていても音が大きかったり、小さすぎたりして、そのたびにボリュームで音量調整をし直さなければならないことがあります。そのような不都合を解消するため、各入力ソースの補正をあらかじめ行うことができます。他の機器よりも出力レベルが低い場合は▶ボタンでdB値を上げ、高い場合は◀ボタンでdB値を下げます。

－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

f. Analog/PCM Source（アナログ/PCM）

アナログソース時、またはPCMソース時のリスニングモードを設定します。
アナログソースには、レコード、AM/FM放送、カセットテープなどがあります。PCM（パルスコードモジュレーション）は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずにCDやDVDに直接記録されます。

g. PCM fs96kHz Source

96kHzのサンプリングレートで記録されたデジタルPCMソースのときのリスニングモードを設定します。

ご注意

「Digital Input」の設定で「----」を選択しているときは、この項目は表示されません。

h. Digital Format Source（デジタルフォーマット）

Dolby Digital、DTS、AACソース時のリスニングモードを設定します。

ご注意

「Digital Input」の設定で「----」を選択しているときは、この項目は表示されません。

入力ソースと設定できるリスニングモード

入力信号の種類	ANALOG/PCM (2ch)	PCM fs=96kHz	Digital Format			
			Dolby Digital (マルチチャンネル)	DTS (マルチチャンネル)	AAC (マルチチャンネル)	2チャンネルソース
代表的なソース / リスニングモード	カセットテープ、CD、MD レコード、FM/AM/TV放送 DVD(Stereo)、LD、BSデジタル放送(Stereo) ビデオテープ	DVD (96k/24bit)	DVD	DVD DTS-CD	BSデジタル放送	DVD BSデジタル放送
Direct	●	●				
Pure Audio	●	●				
Stereo	●	●	●	●	●	●
Dolby Pro Logic II	●					●*
Dolby Digital			●			
Dolby Digital EX			●			
DTS Neo:6	●					
DTS				●		
DTS-ES Discrete				●		
DTS-ES Matrix				●		
AAC					●	
Orchestra	●					
Unplugged	●					
Studio-Mix	●					
TV Logic	●					
All Ch Stereo	●					

* DTSソースのときは選べません。

ご注意

「Speaker Config」の設定や入力信号フォーマットによっては、上表のすべてのリスニングモードを選べないことがあります。

OSDの設定/その他の設定

OSDセットアップ
（オーエスディー）

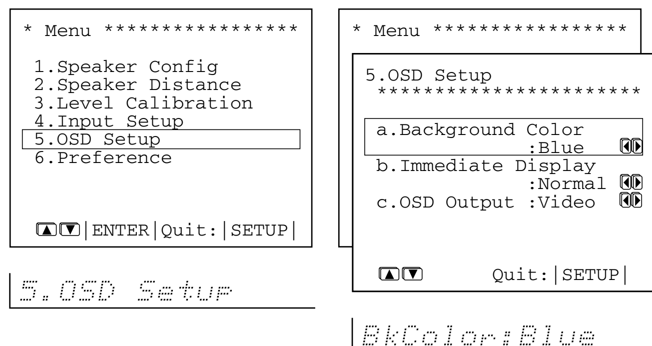
OSD（オンスクリーンディスプレイ）メニューの表示方法をカスタマイズできます。

メニューを表示するには

1. メインメニューを表示させる

2. ▲/▼ボタンを押して「5. OSD Setup」（OSDセットアップ）を選び、ENTERを押す

OSDセットアップメニューが表示されます。



a. Background Color（背景色）

OSDメニューを表示する時の背景色を、Blue（青）、Green（緑）、Magenta（紅色）、Red（赤）の中から選択します。

b. Immediate Display（同時表示）

Off：同時表示をしません。

Normal：4：3のテレビ画面に合わせて、右下隅に操作した時の関連情報を表示します。

Wide：16：9のテレビ画面に合わせて、右下隅に操作した時の関連情報を表示します。



ヒント

「Off」に設定すると映像信号がない時でも背景色は表示されません。

c. OSD Output（OSD出力）

OSDメニューの出力先を設定します。

VIDEO：モニター（TVまたはプロジェクター）を本機のVIDEO OUT端子に接続しているときに選びます。

S VIDEO：モニター（TVまたはプロジェクター）を本機のS VIDEO OUT端子に接続しているときに選びます。

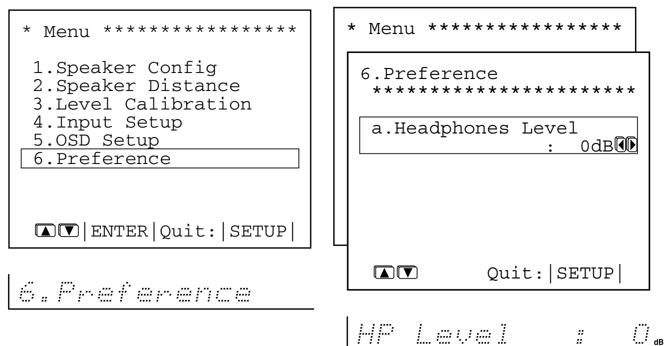
Preference
（プリファレンス）

メニューを表示するには

1. メインメニューを表示させる

2. ▲/▼ボタンを押して「6. Preference」（プリファレンス）を選び、ENTERを押す

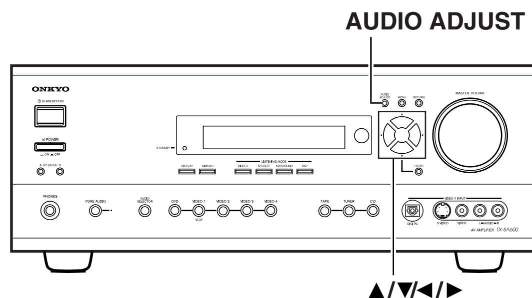
プリファレンスメニューが表示されます。



a. Headphones Level

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときとで音量差があるときに、ヘッドホンの音量を微調整できます。−12dB〜＋12dBの範囲で微調整します。

オーディオアジャスト（音声信号に関する設定）



▲/▼/◀/▶

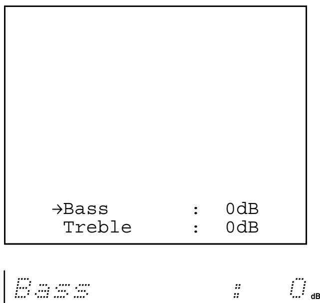
AUDIO ADJUST

リスニングモードや入力信号により調整できるパラメーターが表示されます。

操作手順

1. AUDIO ADJUSTボタンを押す

   モニターと表示部にオーディオアジャストメニューが表示されます。



ご注意

現在選ばれているリスニングモードや、入力されている信号により、表示されない（設定できない）項目があります。
（☞45ページ）

2. ▲/▼ボタンで設定したい項目を選ぶ

3. ◀/▶ボタンでパラメーターを選ぶ

項目	パラメーター	初期値
Bass	−12〜+12	0
Treble	−12〜+12	0
Subwoofer(A/PCM)	On、Off	On
Late Night	Off、Low、High	Off
Multiplex	Main+Sub、Main、Sub	Main
Center Image	0、1、2、3、4、5	3
Panorama	On、Off	Off
Dimension	0、1、2、3、4、5、6	3
Center Width	0、1、2、3、4、5、6、7	3

Bass、Treble（バス、トレブル）

低音（Bass）または高音（Treble）の強弱を2単位で調整します。

Bass、Trebleの調整はフロントL/Rのみ有効です。

ご注意

リスニングモードでDirectまたはPure Audioを選んでいるときは、この項目は設定できません。他のリスニングモードを選んでください。

Subwoofer（サブウーファー）

「Speaker Config」で「Subwoofer」を「Yes」にしていても、Analog/PCMソースの場合のみサブウーファーからの出力をオフにすることができます。「Speaker Config」の「Subwoofer」で「No」を選択した場合は表示されません。

Late Night（レイトナイト）

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞こうとすると、かなり音量をあげる必要があります。このパラメーターは、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。特に夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに役立ちます。「Off」「Low」「High」の設定が可能です。

Off：レイトナイト機能をオフにします。

Low：ダイナミックレンジを小さくします。

High：ダイナミックレンジをさらに小さくします。

- レイトナイトは、ドルビーデジタルソフトでのみ有効です。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっているため、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

Multiplex（マルチプレックス）

BSデジタル放送などで、MPEG-2 AAC音声多重放送を再生しているときに、音声を選びます。「Main」は主音声、「Sub」は副音声、「Main+Sub」は、主音声と副音声です。

Center Image（センターイメージ）

DTS Neo:6は、2チャンネルのPCMまたはアナログソースからセンターチャンネルを生成します。
Cinemaモードの場合は、左右2チャンネルからなる映画のサウンドトラックについて、左チャンネルと右チャンネルから差し引いたサウンドを集めてセンターの音像を構成します。
Musicモードの場合は、センターチャンネルを使ってフロントの音像を増強しつつ、ステレオ音声の元の音場を保ちます。この際、フロントの各チャンネルではフロントの音像を強く浮かび上がらせることよりも、フロントの音像を安定させることに重点が置かれます。そのため、左右の各チャンネルから差し引いたサウンドだけでセンターが生成されることはありません。

Center Imageは、左右のチャンネルからどの程度サウンドを差し引くかを調節します。0から5までの6段階で設定でき、初期設定は3になっています。
Center Imageを5に設定した場合、左右のチャンネルからサウンドは差し引かれません。Center Imageを0に設定した場合は、左右の各チャンネルからハーフレベル（−6dB）で差し引かれます。Center Imageの設定を変更しても、センターチャンネル出力に送られる信号レベルには影響ありません。

リスニングポジションとお好みに合わせてCenter Imageを設定します。5に設定した場合は、元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。0に設定した場合は、より中央に寄った感じになり、特にリスニングポジションが中央からかなりずれている場合に有効です。どの設定の場合もセンタースピーカーが音像の中央となります。

Center Imageは、リスニングモードがDTS Neo:6 Musicのときのみ有効です。

Pro Logic II Music Panorama
（プロロジック II ミュージックパノラマ）

前方の音場を横方向まで広げることができます。

On：PL II Music Panorama効果をオンにします。

Off：PL II Music Panorama効果をオフにします。

Panoramaは、リスニングモードがDolby ProLogic II Musicのときのみ有効です。

Pro Logic II Music Dimension
（プロロジック II ミュージックディメンション）

音場を前方あるいは後方に少しずつ調整できます。
3を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。
録音に広がり感がありすぎたりサラウンドが強すぎる場合、良好なバランスを得るためには、音場を前方に調整します。逆に、ステレオ録音がいくぶんか「モノラル」あるいは「狭い」感じの音である場合、より包み込まれるようにするためには後方へ調整します。
Dimensionは、リスニングモードがDolby ProLogic II Musicのときのみ有効です。

Pro Logic II Music Center Width
（プロロジック II ミュージックセンターウイズス）

プロロジック II デコーディングでは、顕著なセンター信号はセンタースピーカーからのみ出力されることになります。センタースピーカーがない場合、デコーダーはセンター信号をフロント左右スピーカーに等分に振り分け、「ファントム」センター音像を創り出します。
センターウイズスは、センター音像がセンタースピーカーからだけ、あるいはファントム音像としてフロント左右スピーカーからだけ、あるいは種々の割合で三つすべてのスピーカーから聞こえるように、センター音像の可変調整をできるようにします。家庭のユーザーにとって、少量の「幅(ウイズス)」をセンター信号に適用する事はセンタースピーカーとメインスピーカーの配合を改善し、センターの音像幅、すなわち「重量」感に影響を与えます。ステレオ再生用に処理された多くの音楽録音はこのコントロールを使ってよりよい音になります。したがってミュージック（音楽）モードに対して位置「3」の値を使用するコントロールに設定することをおすすめします。これはまた、自動的にコントロールを位置「0」にプリセットされるプロロジック II ムービー（映画）モードとプロロジック II ミュージックモードを区別するのにも役立つことになります。
Center Widthは、リスニングモードがDolby ProLogic II Musicのときのみ有効です。

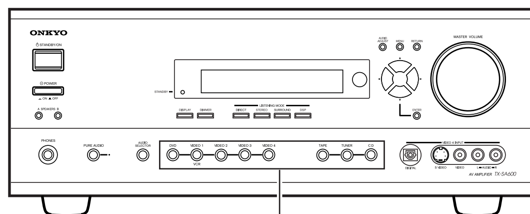
リスニングモードと設定できるパラメーター

パラメーター / リスニングモード	Tone Contol (Bass、Treble)	Subwoofer (アナログ/PCM時のみ)	LATE NIGHT	Center Image	Panorama、Dimension、Center Width	Multiplex
Direct						
Pure Audio						
Stereo	●	●				
Dolby Pro Logic II	●	●	●*1		●*3	
Dolby Digital	●		●			
Dolby Digital EX	●		●			
DTS Neo:6	●	●		●*2		
DTS	●					
DTS-ES Discrete	●					
DTS-ES Matrix	●					
AAC	●					●*4
Orchestra	●	●				
Unplugged	●	●				
Studio-Mix	●	●				
TV Logic	●	●				
All CH Stereo	●	●				

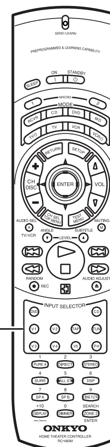
*1 Dolby Digitalのときに有効です。
*2 DTS Neo:6 Musicのときに有効です。
*3 Dolby Pro Logic II Musicのときに有効です。
*4 AAC（音声多重）のときに有効です。

録音・録画する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作憲法上、権利者に無断で使用できません。



入力切り換えボタン



入力切り換えボタン

ご注意

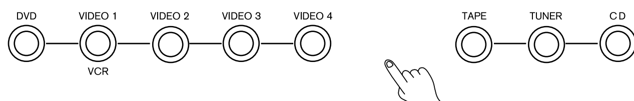
- サラウンド効果は録音されません。
- DIGITAL INPUT（COAXIAL）およびDIGITAL INPUT（OPTICAL）の各入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL　OUTPUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音されるときは、デジタル録音機器（MDレコーダーやDATなど）の取扱説明書もご覧ください。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力にのみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。

音楽や映画を再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1. テープデッキ、ビデオデッキなどの録音・録画機器に録音・録画用のテープを入れる

2. 入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ



3. ソース機器を再生し、録音・録画機器で、録音・録画を始める

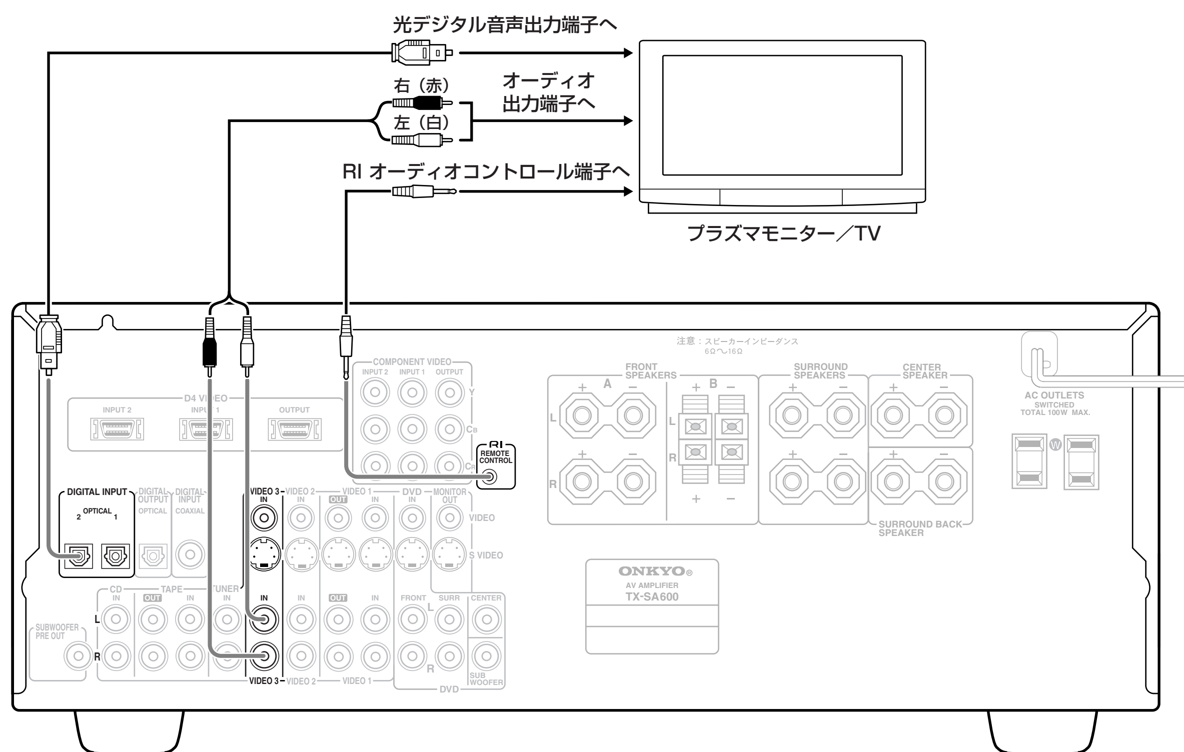
RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機（TX-SA600）は、外部オーディオ機器をコントロールするためのRIオーディオコントロール端子を持つテレビと接続すると、次のような動作が可能になります。

- **テレビの電源を入れるとTX-SA600も自動的に電源が入り、入力がVIDEO 3に切り換わります。**
  また、電源を切る（スタンバイにする）と、TX-SA600も自動的にスタンバイ状態*になります。
  * TX-SA600で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態にはなりません。
- **テレビに付属のリモコンでTX-SA600の音量調整、ミューティング（消音）ができます。**
  このとき、テレビの音声は消えます。
- **TX-SA600のみをスタンバイにすると、テレビはついたままで音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量調整、消音）をコントロールできるようになります。**

連動動作可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RIオーディオコントロール端子が付いているかどうかをご確認ください。
※東芝製テレビにて対応開始（2002年5月）予定です。

イラストにしたがって、接続をしてください。



（ミニプラグ）
モノラルオーディオコード

オーディオ用ピンコード
（ステレオオーディオコード）

光デジタルケーブル
（光ファイバーケーブル）

接続用のケーブルやコードについては、対応しているテレビの取扱説明書をご覧ください。

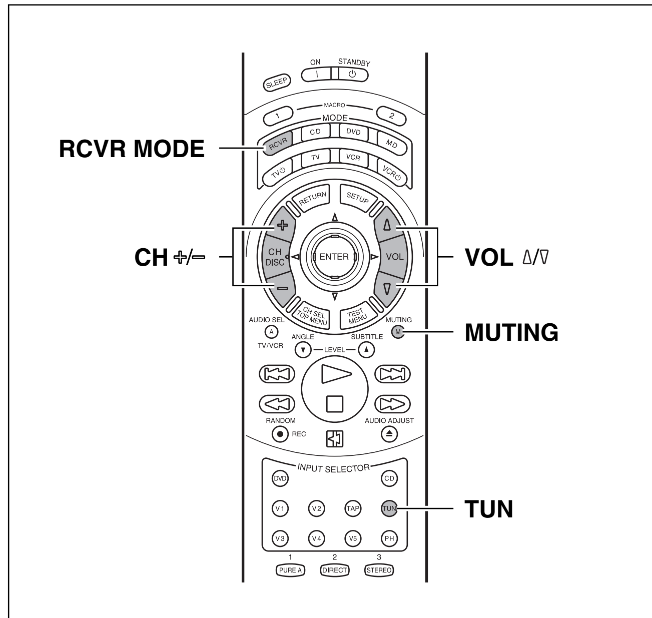
1. **テレビの音声出力（オーディオ出力右/左）端子とTX-SA600のVIDEO 3音声入力（VIDEO 3 IN L/R ）端子を接続する**
2. **モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子とTX-SA600のRI端子を接続する**
3. **テレビの光デジタル音声出力端子とTX-SA600のDIGITAL INPUT OPTICAL 2端子を接続する**
   テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は、接続する必要がありません。

※RI端子に他のオンキヨー製品をつないでいるときは、そのオンキヨー製品のRI端子とテレビのRIオーディオコントロール端子を接続してください。複数のオンキヨー製品をRI接続したいときも同様に、順送りにRI端子どうしをつないで、最後のRI端子とテレビのRIオーディオコントロール端子を接続してください。

リモコンを使う

はじめに

本機のリモコンで、接続した機器が操作できます。
接続した機器を操作するには、はじめにモードボタンで操作する機器を選び、次に各操作ボタンを押します。たとえばCDプレーヤーを操作するには、CD MODEボタンを押してから、CD操作ボタンを押します。



オンキヨー製チューナーを操作する

あらかじめチューナーはRI接続しておいてください。
（☞24ページ）

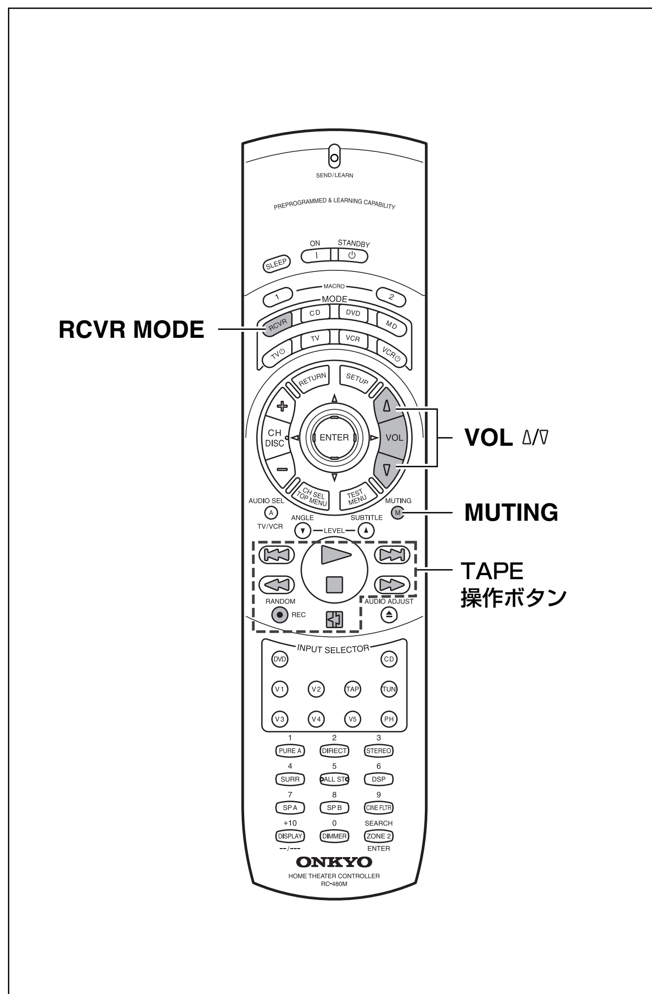
1. **RCVR MODEボタンを押す**
   RCVR MODEボタンが緑色に点灯します。
2. **TUNボタンを押す**
3. **各操作ボタンを押す**

操作ボタン

CH+/−：プリセット番号を選ぶ

下記のボタンも操作することができます。

VOL∆/∇：本機の音量調整
MUTING：本機のミューティング



オンキヨー製テープデッキを操作する

あらかじめテープデッキはRI接続しておいてください。
（☞24ページ）

1. **RCVR MODEボタンを押す**
   RCVR MODEボタンが緑色に点灯します。
2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンが、テープデッキ操作用のボタンです。

操作ボタン

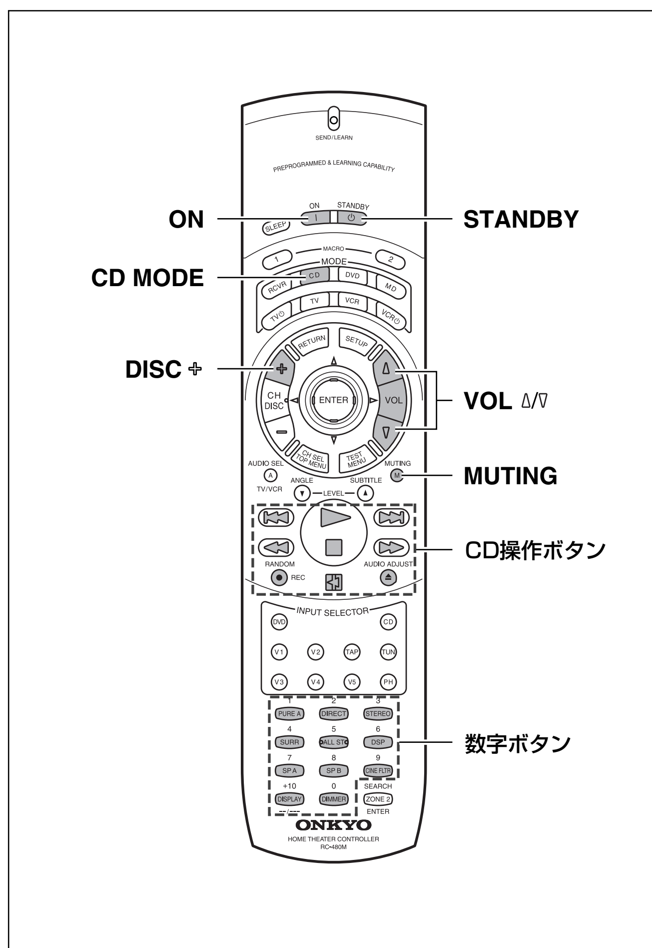
▷：再生
□：停止
◁◁：巻戻し
▷▷ ：早送り
▷▷|：再生中に押すと、次の曲の始めにスキップする
|◁◁：再生中に押すと、現在再生中の曲の始めにスキップする
REC：録音/一時停止
⇄：リバース再生

下記のボタンも操作することができます。

VOL∆/∇：本機の音量調整
MUTING：本機のミューティング

ご注意

録音状態によっては|◁◁/▷▷|ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。



オンキヨー製CDプレーヤーを操作する

あらかじめCDプレーヤーはRI接続しておいてください。
（☞24ページ）

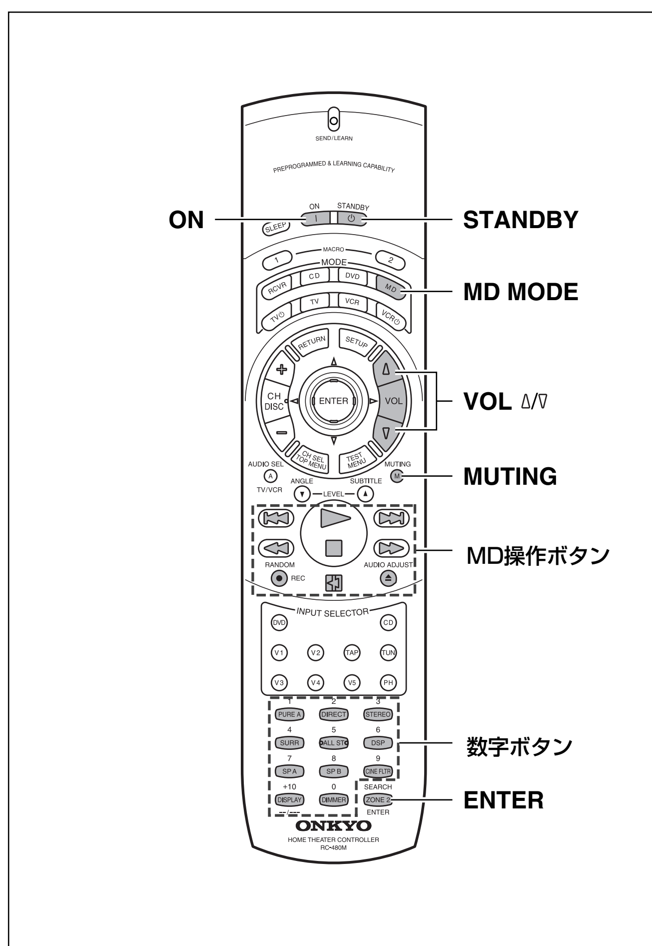
1. **CD MODEボタンを押す**
   CD MODEボタンが緑色に点灯します。
2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンが、CDプレーヤー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON：CDプレーヤーの電源オン/オフ（STANDBYボタンも同じ働きです）
DISC＋：CDチェンジャーのディスクの選択
⏮：トラックダウン
⏭：トラックアップ
▷：再生
□：停止
◁◁：早戻し
▷▷：早送り
⏸：一時停止
⏏：ディスクトレイの開閉
RANDOM：ランダム再生
0, 1から9, +10：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇：本機の音量調整
MUTING：本機のミューティング



オンキヨー製MDレコーダーを操作する

あらかじめMDレコーダーはRI接続しておいてください。
（☞24ページ）

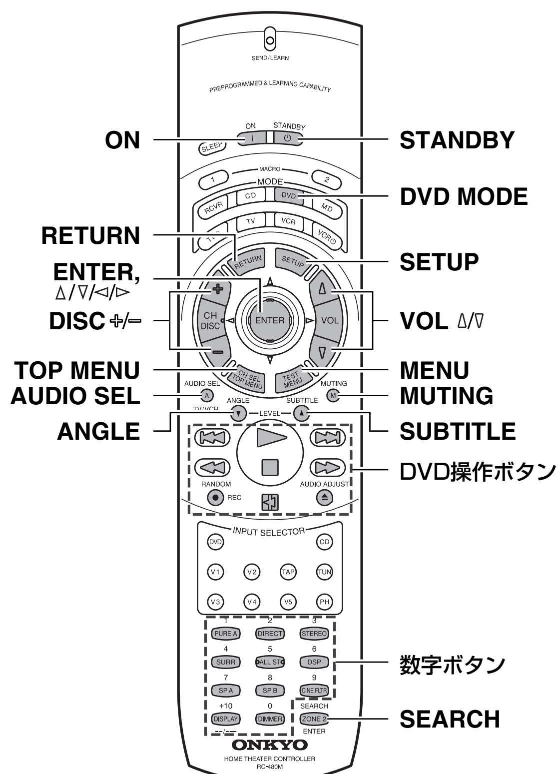
1. **MD MODEボタンを押す**
   MD MODEボタンが緑色に点灯します。
2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがMDレコーダー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON：MDレコーダーの電源オン/オフ（STANDBYボタンも同じ働きです）
⏮：トラックダウン
⏭：トラックアップ
▷：再生
□：停止
◁◁：早戻し
▷▷：早送り
REC：録音
⏸：一時停止
⏏：取り出し
1から9, 0, --/---：数字ボタン
ENTER：決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇：本機の音量調整
MUTING：本機のミューティング



オンキヨー製DVDプレーヤーを操作する

あらかじめDVDプレーヤーはRI接続しておいてください。（☞24ページ）

1. **DVD MODEボタンを押す**
   DVD MODEボタンが緑色に点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがDVDプレーヤー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON：DVDプレーヤーの電源オン/オフ

STANDBY：DVDプレーヤーの電源オフ（このボタンが働かない場合は、ONボタンを押してDVDプレーヤーをスタンバイ状態にして下さい）

SETUP：セットアップメニュー表示

∆/∇/◁/▷：DVDプレーヤーOSDのカーソル移動

ENTER：DVDプレーヤーOSDの決定

RETURN：DVDプレーヤーOSDのリターン

TOP MENU/MENU：トップメニューまたはメニュー表示

DISC+/–：DVDチェンジャーのディスク選択

AUDIO SEL：音声言語の選択

ANGLE：カメラアングルの選択

SUBTITLE：字幕の選択

SEARCH：サーチ

RANDOM：ランダム再生

⏮：チャプター/トラックダウン

⏭：チャプター/トラックアップ

▷：再生

□：停止

◁◁：早戻し

▷▷：早送り

⏸：一時停止

⏏：ディスクトレイの開閉

0, 1から9, +10：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇：本機の音量調整

MUTING：本機のミューティング

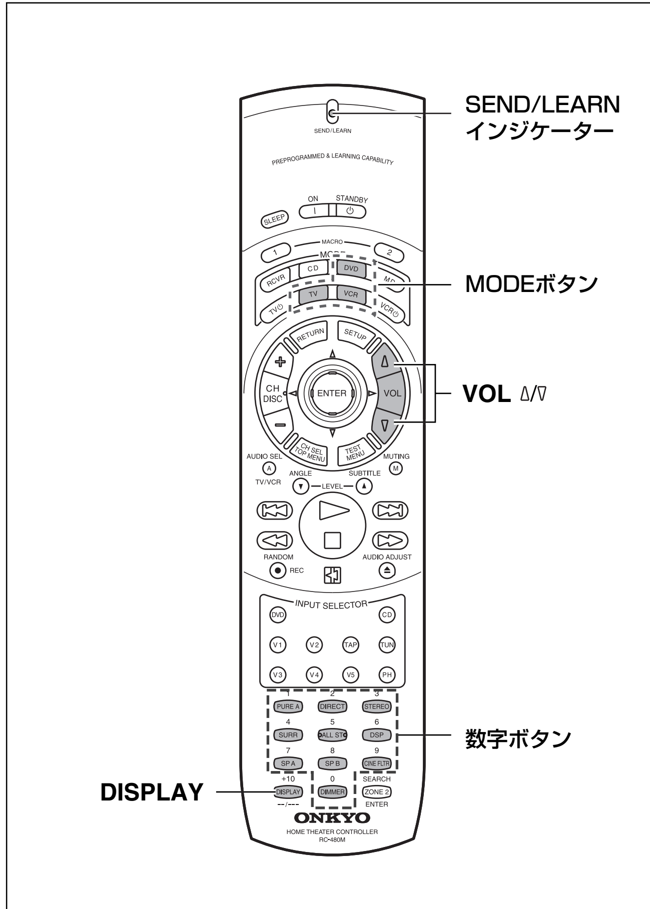
ご注意

DVDプレーヤーをRI接続していないとき、またはRI端子のないDVDプレーヤーを操作するときは、リモコンコードを記憶させる必要があります。（☞51ページ）

リモコンコードを記憶させる

リモコンコードを記憶させるには、次の3つの方法があります。

- 他機のリモコンコードを登録する
- 他機のリモコンから学習させる（☞54ページ）
- マクロ機能を使う（☞57ページ）



機器によっては、正しく操作できないことがあります。その場合は、「他機のリモコンから学習させる」（☞54ページ）の方法で学習させてください。

他機のリモコンコードを登録する

次ページのコード表を参照しながら操作してください。

1. 登録したい他機のメーカー名別コード（3桁）を確かめる（☞次ページ）

2. 操作したい他機の電源を入れる（DVD、チューナー、TVなど）

3. 登録したいMODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを押し、両方から指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、DISPLAYボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

4. 30秒以内に、3桁のコードを入力する

SEND/LEARNインジケーターが、2回ゆっくり点滅します。3回すばやく点滅したときは、登録に失敗しているので、改めて手順3から操作してください。

5. 登録したボタンを押して、他機を操作する

- もし他機が操作できないときは、手順3に戻って登録をやり直してください。
- 登録をやり直しても他機が操作できないときは、「他機のリモコンから学習させる（☞54ページ）の方法でボタンごとにコードを登録してください。

オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは

次の3種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて、選んでください。

No. 601/613：これらのコードでは、RI端子がついていない、またはRI接続していないDVDプレーヤーを直接操作することができます。まず「601」を登録し、正しく動作しないときは、「613」にしてください。

No. 600：このコードでは、RI接続しているDVDプレーヤーを操作することができます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作できます。初期設定は「600」になっているので、そのまま使用するときは設定の必要はありません。「601」または「613」設定の状態から「600」設定に戻すときに操作してください。

リモコンコード表

ご注意

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
DENON	602, 609
HITACHI	603
JVC	604
KENWOOD	605
MAGNAVOX	606, 613
MARANTZ	607
MITSUBISHI	608, 613
ONKYO	600, 601, 613
PANASONIC	609
PIONEER	610
PROSCAN	611
RCA	611
SONY	612
TOSHIBA	613
YAMAHA	609, 614
ZENITH	613, 615

VCR（ビデオデッキ）

ブランド名	コード番号
AIWA	300, 301, 302
AKAI	303, 304, 305 306, 307
BAIRD	308
BELL&HOWELL	309
BLAUPUNKT	310
CGM	311, 312, 313
COLTINA	314
DAEWOO	315, 316
DIGITAL	317
EMERSON	318, 319, 320 321,322
FENNER	323
FISHER	324, 325, 326 327
FUJITSU GENERAL	328
FUNAI	329
GE	330, 331
GO VIDEO	332, 336, 337
GOLDSTAR	333, 334
GOODMANS	335
GRUNDIG	338
HITACHI	331, 339, 340, 341, 382
JVC	342, 343, 344 345, 346, 347 348, 349, 350
LOEWE	351, 352
MAGNAVOX	353, 354, 355
MITSUBISHI	356, 357, 358 359,360, 361 362, 363, 364
NEC	365, 366, 367
NOKIA	313
NORDMENDE	368, 369, 370
OKANO	371, 372
ORION	319, 373
PANASONIC	374, 375, 376 377,378
PHILIPS	353, 379, 380
PHONOLA	311
PIONEER	381
RCA	382
SABA	383
SAMSUNG	384, 385, 386 387, 388, 389 390
SANYO	391, 392, 393
SCOTT	394
SELECO	395
SHARP	396, 397, 398 399
SHINTOM	400
SIEMENS	401
SONY	402, 403, 404 405, 406, 407 408, 409, 410 411, 412, 413 423
SYMPHONIC	414
TEKNIKA	414, 415
TELEFUNKEN	416, 417
TOSHIBA	418, 419, 420
WHITE WESTINGHOUSE	333
WATSON	421
ZENITH	422

TV（テレビ）

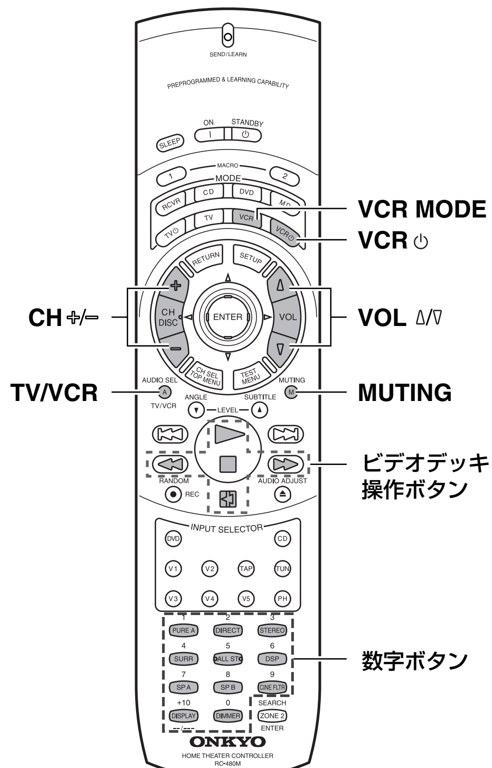
ブランド名	コード番号
AIWA	100, 101
AKAI	102, 103, 104
AUDIOSONIC	105
BELL&HOWELL	106
BLAUPUNKT	107
BRIONVEGA	108, 109
CENTURION	110
COLTINA	111, 112, 113
CORONAD	114
CROWN	115, 116
DAEWOO	117, 118, 119 120, 121
DUAL	122
EMERSON	123, 124, 125 126, 127
FENNER	128, 129
FERGUSON	130, 131
FISHER	132
FUNAI	133, 134, 135
FUJITSU GENERAL	136, 137, 138
GE	139, 140, 141
GOLDSTAR	142, 143
GOODMANS	144
GRUNDIG	145, 146
HITACHI	147, 148, 149 150
HYPER	151
INNO HIT	152
IRRADIO	103
JVC	153, 154, 155 156, 157
KENDO	158
KTV	159, 160
LUXOR	161
MAGNAVOX	162, 163
MARANTZ	164
MARK	165
MATSUI	166, 167, 168 169
MITSUBISHI	170, 171, 172 173
MIVAR	174, 175
NEC	176, 177
NOKIA	178, 179, 180 181
OCEANIC	181
NORDMENDE	182, 183
OKANO	152
ORION	184, 185, 186
PANASONIC	187, 188, 189 190
PHILIPS	152, 162, 191
PIONEER	192, 193
PROSCAN	194
QUASAR	195
RADIO SHACK	196
RCA	110, 141, 197 198, 199, 200
SABA	182, 183, 201
SAMSUNG	202, 203, 204 205, 206, 207 208
SANYO	209, 210, 211 212
SCHNEIDER	103
SEARS	213
SELECO	214, 215
SHARP	216, 217
SONY	218, 219, 220 221,222, 223
SYMPHONIC	224, 225
TELEFUNKEN	201, 226, 227
THOMSON	228
TOSHIBA	213, 229
UNIVERSUM	230
ZENITH	231, 232

記憶させたリモコンで操作する

ここでの操作をする前に、あらかじめリモコンコードを記憶させてください。（☞51ページ）

DVDプレーヤーを操作する

50ページの説明と同じ操作ができます。



ビデオデッキを操作する

1. VCR MODEボタンを押す
   VCR MODEボタンが緑色に点灯します。
2. 各操作ボタンを押す
   左の図にグレーで示したボタンがビデオデッキ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

VCR⏻：ビデオデッキの電源を入/切（同時にモードがVCRに切り換わります）

CH+/−：プリセット局の選局

TV/VCR：テレビ/ビデオの切り換え

▷：再生

□：停止

◁◁：巻戻し

▷▷：早送り

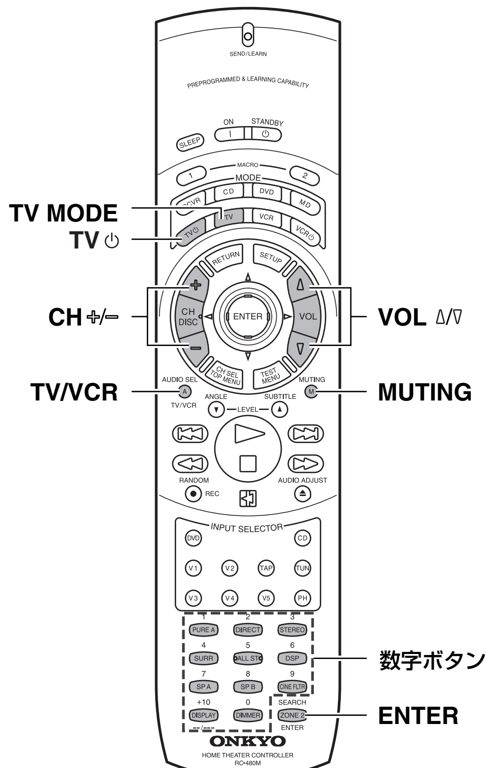
⏸：一時停止

0,1から9, +10：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇：本機の音量調整

MUTING：本機のミューティング



テレビを操作する

1. TV MODEボタンを押す
   TV MODEボタンが緑色に点灯します。
2. 各操作ボタンを押す
   左の図にグレーで示したボタンがテレビ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

TV⏻：TVの電源を入/切（同時にモードがTVに切り換わります）

CH +/−：チャンネル選択

TV/VCR：テレビ/ビデオの入力切り換え

0,1から9, +10：数字ボタン

ENTER：決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL∆/∇：テレビの音量調整

MUTING：テレビのミューティング

他機のリモコンから学習させる

他機のリモコン

5～15cm

RC-480M

SEND/LEARN
インジケーター

MODEボタン

ENTER

学習の手順

他機のリモコンコードを本機のリモコンに学習させる場合、まずどのMODEボタンにコードを学習させるかを選択します。転送元の機器に合ったMODEボタンを選ぶのが一般的です。たとえばCDプレーヤーのリモコンコードを学習させる場合は、CD MODEボタンを押します。

使用するMODEボタンが決まったら、本機のリモコンのボタンに他機のリモコンコードを1つずつ転送します。各リモコンコードは、それぞれ異なるボタンに登録します。6つのMODEボタン（RCVR、CD、DVD、MD、TV、VCR）、2つのMACROボタン（1と2）以外は、どのボタンにも登録できます。

電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

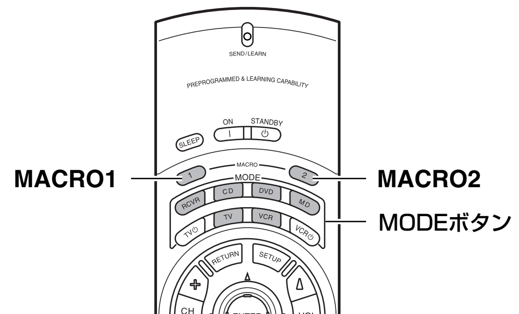
1. **他機のリモコンと本機のリモコンを、5～15cm離して置く**

2. **学習させたいMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

3. **登録する操作ボタンを押して、指を離す**

   下記に示したボタン以外なら、どのボタンに登録することもできます。ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
   押すボタンを間違えたときは、同じボタンをもう一度押してください。SEND/LEARNインジケーターが2回点滅し、学習モードが解除されます。



：登録できないボタン

4. **他機のリモコンの登録したい操作ボタンを、SEND/LEARNインジケーターが2回点滅するまで押し続ける**

   SEND/LEARNインジケーターは2回点滅したあと、再び点灯します。

5. **同じMODEで別の操作ボタンを登録する場合は、手順3～4を繰り返す**

   別の機器のリモコンのコードを学習させるなど、異なるMODEボタンを選んで登録する場合は、手順2～4を繰り返します。

6. **学習を終了する場合は、手順2で選んだMODEボタンを押す**

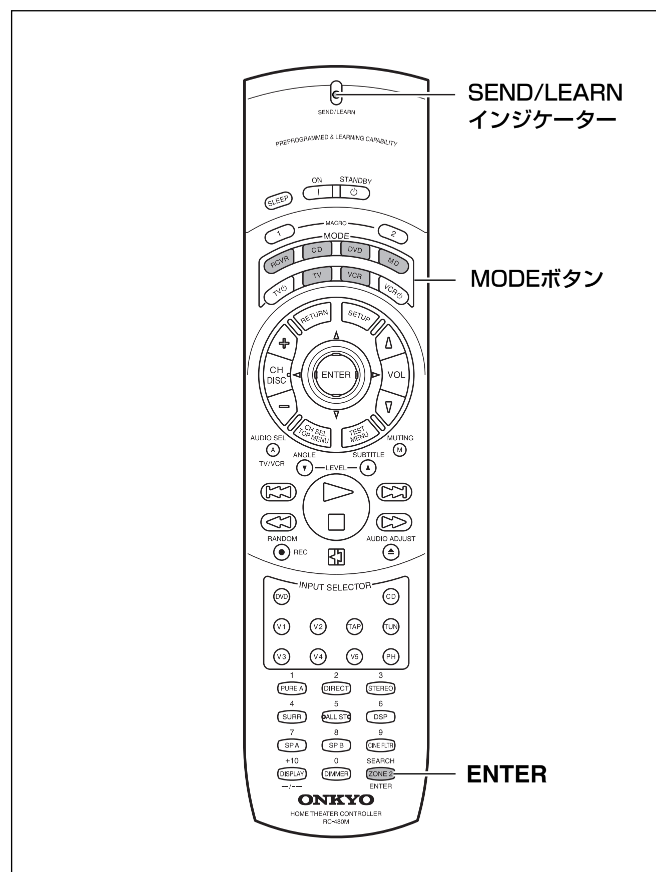
7. **登録したボタンで正しく操作できることを確かめる**

他機のリモコンから学習させる

ご注意

- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、テープデッキ、DVDプレーヤー、MDレコーダー用のコードをすでに記憶しています。しかし、これらのボタンに他機のコードを記憶させることもできます。記憶内容を消去すると（☞次ページ）、元の働きに戻ります。
- 本機のリモコンには、学習エリアとして318個（6モード×53ボタン）のボタンがあります。ただし、他機リモコンのメーカーや機種によって、すべてのボタンに記憶させることができない場合がありますので、ボタンの優先順位を決めて学習させてください。
- SEND/LEARNインジケーターがすばやく3回点滅してから消えたときは、操作を失敗したか、タイムアウトのため学習モードが解除されたことを示します。もう一度手順2から操作を始めてください。
- 学習容量を超えた場合は、SEND/LEARNインジケーターが6回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、別のMODEボタンを選んで操作してください。
- すでにコードが登録されているボタンに、新しいコードを記憶させるときも、同じ手順で操作します。そのときは、新しいコードが上書きされます。
- 本機のリモコンは、ほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- リモコンによっては、1つのボタンで複数の操作を実行させるものがあります（たとえば、ボタンを押すたびに機能が切り換わるものなど）。その場合は、各機能を別々のボタンに記憶させてください。
- 本機のリモコンに記憶させた他機の操作方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本機および他機のリモコンの電池は新しいものをご使用ください。電池が消耗していると、学習操作ができないことがあります。

記憶内容を消去する方法については、次ページをご覧ください。



記憶させたコードを消去する

消去できるのは学習されたコードのみです。あらかじめプリセットされているコードを消すことはできません。

1. **消去したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

2. **消去したいボタンを押して、指を離す**

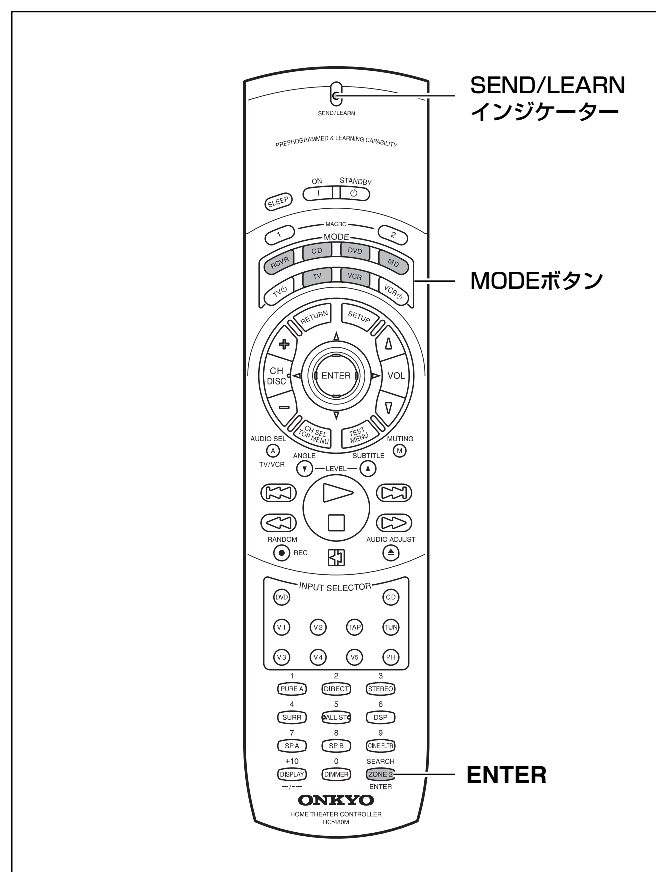
   ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

3. **消したいボタンをもう一度押して、指を離す**

   SEND/LEARNインジケーターがゆっくり2回点滅します。

ご注意

操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。



あるMODEボタンに登録したすべてのボタンのコードをまとめて消去する

1. **消去したいMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを2回押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが2回ゆっくり点滅したあと、再び点灯します。

2. **消したいMODEボタンをもう一度押して、指を離す**

   指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これで消去が完了し、元の状態に戻ります。

ご注意

- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- MODEボタンへの登録ボタンの数が多いときは、手順2で、SEND/LEARNインジケーターが最長で20秒間点灯し続けることがありますが、故障ではありません。

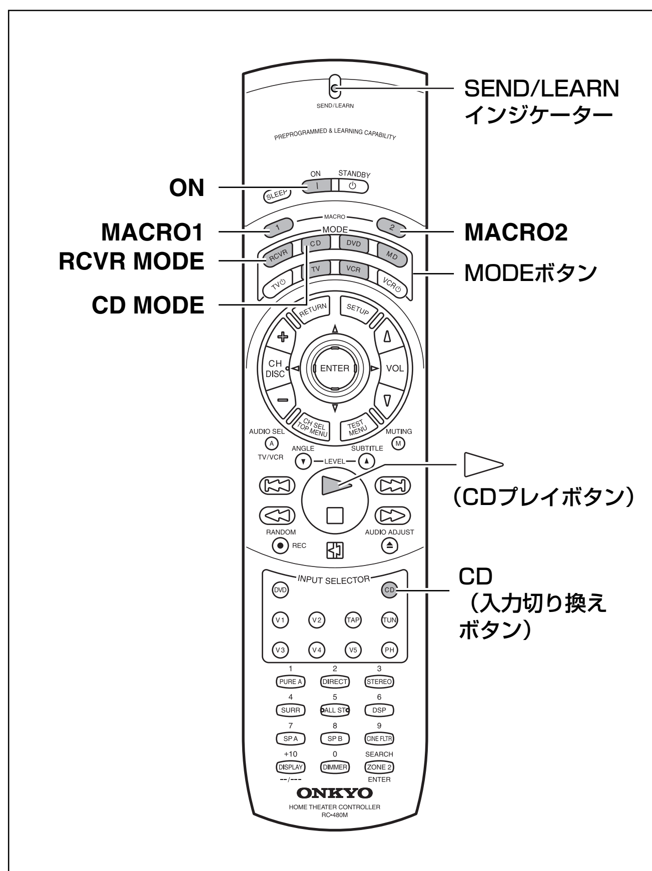
マクロ機能を使う

マクロ機能とは?

連続した操作（最大16操作）をリモコンの1つのボタンに記憶させることのできる機能です。たとえば、CDプレーヤーで演奏するには、次のような操作が必要になります。

1. RCVR MODEボタンを押す
2. ONを押す
3. 入力切り換え部のCDボタンを押す
4. CD MODEボタンを押す
5. 再生(▷)ボタンを押す

マクロ機能を使うと、上記の5つの操作を、1つのボタン操作で行うことができます。



ヒント

- マクロに記憶させたあとで、その中の操作ボタンを消去したり、別の信号を記憶させた場合は、その操作ボタンは働かなくなります。このような場合は誤動作を防ぐため、再度マクロ学習をさせ直してください。
- マクロ信号は、0.5秒間隔で次々に送信されます。そのため操作する機器によってはひとつの動作が0.5秒で完了せず、次の信号が読み取れない場合があります。このような時は、マクロを記憶させるときに連続したボタン操作の間でそのMODEボタンを押すと、約1秒の間隔をさらにあけることができます。

マクロモード1、2を学習させる

マクロ機能を使うと、MACROボタンを押すだけで、ひとつながりの操作をすることができます。マクロ機能では、記憶させることのできるマクロは１とおりのみです。たとえば、左の操作をMACROボタンに記憶させるには、次のように操作します。

1. **希望のMODEボタン（CD　MODEボタン）を押しながら、MACRO1（または2）ボタンを押し、指を離す**
   CD MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、CD MODEボタンが緑色に点灯します。
   MACROボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
2. **記憶させたい操作ボタンを、操作順に連続して押す（RCVR MODE→ON→CD（INPUT SELECTOR）→CD MODE→▷)**
   各ボタンを押すたびに、SEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
3. **MACRO1（または2）ボタンを押して終了する**
   SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。
4. **マクロを実行して、正しく記憶されたかを確かめる**

ご注意

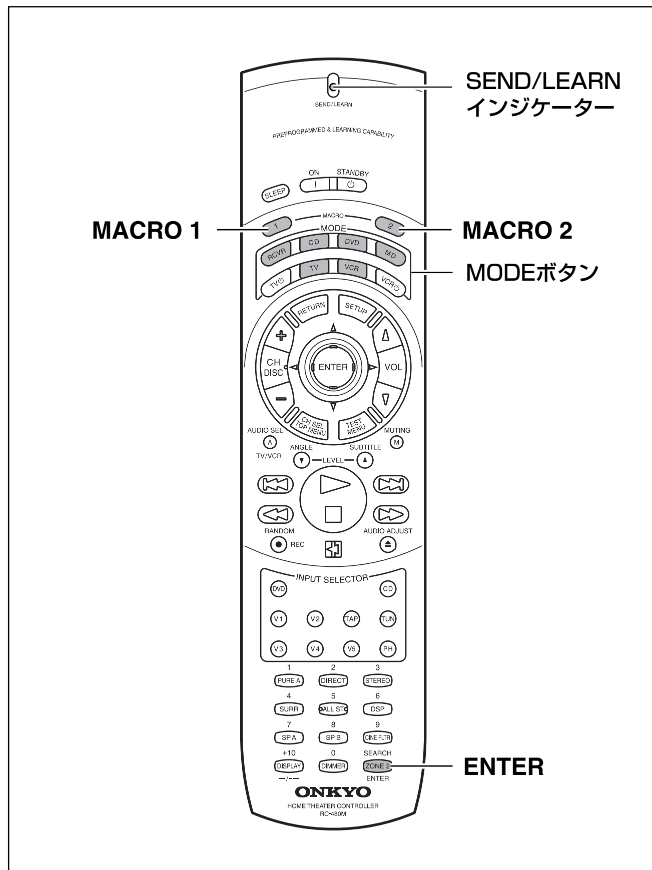
- 連続して記憶できるボタン操作は16個までです。17個目を記憶させようとしても16個までで終了します。
- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。

マクロを実行する

リモコンに記憶させたマクロを実行するには、下記のように操作します。新しいマクロを記憶させたときは、必ず一度実行してみて、正しく動作することを確認してください。

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、MACRO1（または2）ボタンを押す

マクロを転送し終えるまで時間がかかる場合がありますので、SEND/LEARNインジケーターが消えるまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。



MACROボタンに記憶させたマクロを消去する

1. MODEボタンのいずれかを押しながら、MACRO1（または2）ボタンを押し、指を離す

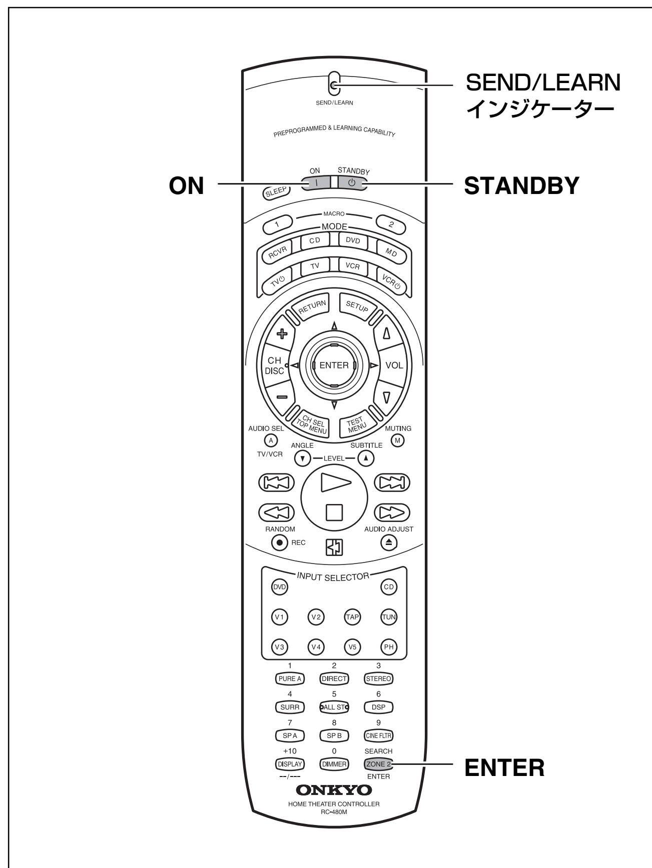
MODEボタンを押すと、MODEボタンが緑色に点灯し、SEND/LEARNインジケーターが点灯します。MACROボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと1回だけ点滅します。

2. MACRO1（または2）ボタンをもう一度押す

指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これでMACROボタンのマクロは消去されます。

ご注意

- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 手順2でMACRO以外のボタンを押すと、新しいマクロとして上書きされてしまいます。



リモコンコードとマクロをすべて消去する

この操作を行うと、リモコンに記憶させたすべてのコードとマクロが消去され、リモコンが初期設定の状態に戻ります。したがって、初期設定のリモコンでは効果はありません。

1. 電池カバーを開け、電池を取り出す

2. ONボタンとSTANDBYボタンを同時に押しながら、電池を正しく入れ、ボタンから指を離す

SEND/LEARNインジケーターがゆっくり点滅します。

3. ENTERボタンを押す

SEND/LEARNインジケーターが約10秒間点灯してから、消えます。

リモコンに記憶させたすべてのコードとマクロが消去され、リモコンが工場出荷時の状態に戻ります。

ご注意

- 手順2から手順3へは、すばやく操作してください。手順2の状態でそのままにしておくと、電池が消耗してしまいます。
- 手順3でENTER以外のボタンを押すと、消去は実行されません。その場合は、手順1から操作しなおしてください。

マクロモード設定メモ

MACRO	MACRO1	MACRO2
操作 1		
操作 2		
操作 3		
操作 4		
操作 5		
操作 6		
操作 7		
操作 8		
操作 9		
操作 10		
操作 11		
操作 12		
操作 13		
操作 14		
操作 15		
操作 16		

故障?と思ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（TX-SA600）」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
電源	● 電源が入らない。	● 電源プラグが抜けている。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。	28
		● 外部ノイズが本機内部のマイクロコンピューターに影響した。	● 電源を一度切り、5秒以上たってから再度電源を入れてください。	28
	● 電源は入るが、音が出ない。	● ミューティングが働いている。	● リモコンのMUTINGボタンを押してMUTING表示を消してください。	34
		● ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。	18〜27
		● 入力切り換えが演奏したいソースになっていない。	● 入力切り換えで演奏したいソースを選んでください。	33
		● ヘッドホンを接続している。	● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。	–
	● ふいに電源が切れ、電源を入れ直してもまた切れた。	● アンプ保護回路が作動した。	● ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	–
スピーカー	● センタースピーカーの音が小さい、または音が出ない。	● スピーカーコードが接続されていない。	● アンプとの接続を確認してください。	27
		● リスニングモードによってセンタースピーカーからの音の出方が異なる。	● リスニングモードによって、センタースピーカーからの音の出方が異なります。	–
		● センタースピーカーの設定が「None」になっている。	● センタースピーカーを接続しているときは、センタースピーカーを「Large」または「Small」に設定してください。	29
		● センタースピーカーの音量が正しく調整されていない。	● センタースピーカーの音量を確認してください。	31
	● ブーンという音や低音のノイズが聞こえる。	● ピンコードがノイズの影響を受けている。	● ピンコードを動かしてみて、ノイズがいちばん小さくなるところに固定してください。	–
	● 耳障りな雑音や引っ掻き音が聞こえる。または、高音域が明瞭に聞こえない。	● 高音域が強すぎる。	●「Audio Adjust」で「Treble」を下げてください。	44
	● サブウーファーから音がでない。	● サブウーファーの設定が「No」になっている。	● スピーカー設定を確認してください。	29
	● サブウーファーの音が小さい。	● サブウーファーのレベルが小さい。	● 適正なレベルにしてください。	31
音声と映像	● 希望の映像が出てこない。	● 接続が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。	20〜23
	● OSD画面表示が出ない。	● 接続が不完全。	● 接続を確認してください。	23
		● OSD画面表示はMONITOR OUT VIDEOまたはS VIDEOに接続した場合に使用できます。	● 接続を確認してください。	23
		● OSD画面表示の出力先の設定が実際の接続と合っていない。	● モニターを接続している方の端子を出力先に選んでください。	29
	● 映像と音声が違う。	● 接続が間違っている。	● 接続を確認してください。	20〜23
	● 音が聞こえない。選んだ入力と違う音声が出る。	●「Digital Input」の設定が正しくない。	● 設定を確認してください。	40
	● テレビに映像が出ない。	● テレビの入力切り換えが正しくない。	● 正しい入力を選んでください。	–
		● 映像コードの接続が不完全。	● 正しく接続してください。	23
		● COMPONENT VIDEO INPUT から入った信号はCOMPONENT VIDEO OUTPUTおよびD4出力端子にしか出力されません。	● 入力信号と出力信号の接続を確認してください。	20〜23

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
リモコン	● 本体のボタンで操作できるのに、リモコン操作ができない。	● リモコンに電池が入っていない。	● 乾電池を正しく入れてください。	9
		● 電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	9
	● リモコン操作ができない。	● リモコンがリモコン受光部に向けられていない。	● リモコン受光部に向けて操作してください。	9
		● リモコンを操作する位置が本機から離れ過ぎている。	● 本機から5m以内の場所から操作してください。	9
		● RCVRモードになっていない。	● RCVR MODEボタンを押してください。	28
その他	● オーディオアジャストのパラメーターが設定できない。	● リスニングモードによっては設定できないものがあります。	● 各項をご覧ください。	44〜45
	● LATE NIGHTが働かない。	● 再生ソースがドルビーデジタルでない。	●“DOLBY DIGITAL”表示が点灯していることを確認してください。	ー
	● マルチチャンネル音声が 出 力 さ れ な い 。	● 入力ソースDVDの「Input Setup」の「Multichannel 」が「Yes」になっていない。	● 設定を確認してください。	41
		● 入力ソースDVDのAUDIO SELECTORがMultichになっていない。	● AUDIO SELECTORボタンを押してMultichを選んでください。	35
		● DVDプレーヤーの音声の接続が間違っている。	● 接続を確認してください。	20〜21
	● デジタルソースで、ソフトによって音が出たり出なかったりする。	● デジタル入力のフォーマットが固定されているため、それ以外のフォーマットのときに音が聞こえない。	●「Input Setup」の「Digital Format」を「All」にしてください。	41
	● DTSソースやPCMソースなど、デジタルソースを再生するとノイズが入ったり出だしが切れたりする。	● デジタルフォーマットの設定で「All」にしているときに、ソースによってはフォーマット切り換えに時間がかかることがある。	●「Input Setup」の「Digital Format」を各々のソースと同じフォーマットにして再生してみてください。	41

エラーメッセージ一覧

メッセージ	意味
“Not Available With Headphones Use”	ヘッドホンが接続されているため、操作はできません。
“Not Available With Multichannel Use”	マルチチャンネルを使用しているため、操作できません。
“Not Available In This Sp Config”	現在のスピーカーコンフィグ設定では働きません。
“Only Available With Dolby D”	Dolby Digital以外の設定はできません。
“Not Available in this Listening Mode”	現在のリスニングモードでは働きません。
“Not Available with this signal”	現在の入力ソースでは、リスニングモードが選べません。
“Not Available with Muting”	ミューティングがかかっているので操作できません。

※サラウンドモードなどの設定をすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。表示部に“CLEAR”と表示され、スタンバイ状態になります。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象にはなりませんので大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

仕様

■アンプ（音声）部

定格出力

全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
8Ω　80W（20Hz～20,000Hz）
全高調波歪率：0.08%以下
6Ω　105W（1,000Hz）
全高調波歪率：0.1%以下

ダイナミックパワー（2チャンネル駆動時）
4Ω　160W

混変調ひずみ率：
定格出力時で0.08%
1W出力時で0.08%

ダンピングファクター：8Ω負荷時で60

入力感度/インピーダンス
LINE入力：200mV/47kΩ

MULTI CHANNEL INPUT
FRONT LEFT/CENTER/RIGHT、SURROUND LEFT/RIGHT：
200mV/47kΩ
SUBWOOFER：36mV/47kΩ

COAX（DIGITAL）：0.5Vp-p/75Ω

DVD、VIDEO 1、2、3、4
VIDEO（コンポジット信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（Y信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT/（D4） VIDEO：
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR,CB）

定格出力/インピーダンス
REC OUT：200mV/470Ω
PRE OUT：1V/470Ω

VIDEO、MONITOR
VIDEO（コンポジット信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（Y信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT/（D4）VIDEO：
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR,CB）

周波数特性
10Hz～100kHz、+1/－3dB（CD入力、ダイレクトモード）

トーンコントロール
BASS：±12dB（50Hz時）
TREBLE：±12dB（20,000Hz時）

SN比（Stereo時）
CD/TAPE：100dB（IHF A、0.5V入力時）
ミューティング：－50dB

■一般仕様

使用電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：220W（電気用品安全法技術基準）
待機時電力：1.9W
外形寸法：435（幅）×175（高さ）×431.5（奥行）mm
質量：12.1kg

■リモコンRC-480M

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3型（1.5V）乾電池2個

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9：30～17：30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e－mail：　ホームシアター/オーディオ製品　→　customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→　mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL.　：　ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX.　：　072－831－8124 ＊はがき　：　〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町２－１ オンキヨー株式会社　カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→　http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→　http://www.e-onkyo.com

修理窓口　修理のご依頼は、取扱説明書の「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

北海道地区	神奈川地区
札幌サービスステーション TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028 札幌市北区北２８条西5-1-28　トーシン北28条ビル	横浜サービスステーション TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072 横浜市西区浅間町1-13 共益ビル５F
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	岐阜・静岡・愛知・三重地区
仙台サービスステーション TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330 〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5 第二丸昌ビル1F	名古屋サービスステーション TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013 名古屋市名東区社口１丁目1001番
茨城・栃木地区	富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区
宇都宮サービスステーション TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831 栃木県宇都宮市新町2-7-7	大阪サービスセンター TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013 大阪市港区福崎３丁目1番１４８号
群馬・埼玉・新潟地区	鳥取・島根・岡山・広島・山口(下関を除く)地区
大宮サービスステーション TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034 埼玉県さいたま市土呂町2-29-2 高安ビル１F	広島サービスステーション TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057 広島市東区二葉の里2-8-28
千葉・東京(23区)地区	徳島・香川・愛媛・高知地区
東京サービスセンター TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル	高松サービスステーション TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079 高松市松縄町44-8　西原ビル1F
東京(23区を除く)・山梨・長野地区	山口(下関)・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区
八王子サービスステーション TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312 〒192-0914 東京都八王子市片倉町358番地	福岡サービスステーション TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-8-19 みなみビル202

オンキヨーサービス認定店（オンキヨー製品の修理を委託しているサービス認定店です。）

静岡サービス認定店 TEL 0543-46-6502　FAX 0543-46-6502 〒424-0063 静岡県清水市能島171-15	熊本サービス認定店 TEL 096-364-1475　FAX 096-364-1475 〒862-0970 熊本県熊本市渡鹿7-15-18
北陸サービス認定店 TEL 0776-27-1868　FAX 0776-27-1768 〒910-0001 福井県福井市大願寺3-5-9	沖縄サービス認定店 TEL 098-876-9195　FAX 098-876-9195 〒901-2104 沖縄県浦添市当山558番地の8 キャッスルサイド浦添102号
岡山サービス認定店 TEL 086-274-5840　FAX 086-274-5840 〒703-8271 岡山県岡山市円山13	

2001年12月現在　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031G

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日

ご購入店名：

Tel.　（　）

メモ：

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（TX－SA600）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎03（3861）8121　●大阪サービスセンター　☎06（6576）7620

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343303

D0203-1